新女界

主筆　安井哲子

第四卷第四號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千代田香油

（嬉しいこと）美ちゃんの赤い毛も、花ちゃんの縮れ毛も、芳ちゃんの脱毛も頭垢も　皆美しくなりました、之れ全く千代田香油の賜と喜んで居ります

定價
金七十錢
金三十五錢
金二十五錢
金十七錢

英國製スワン石鹸日本一手發賣元

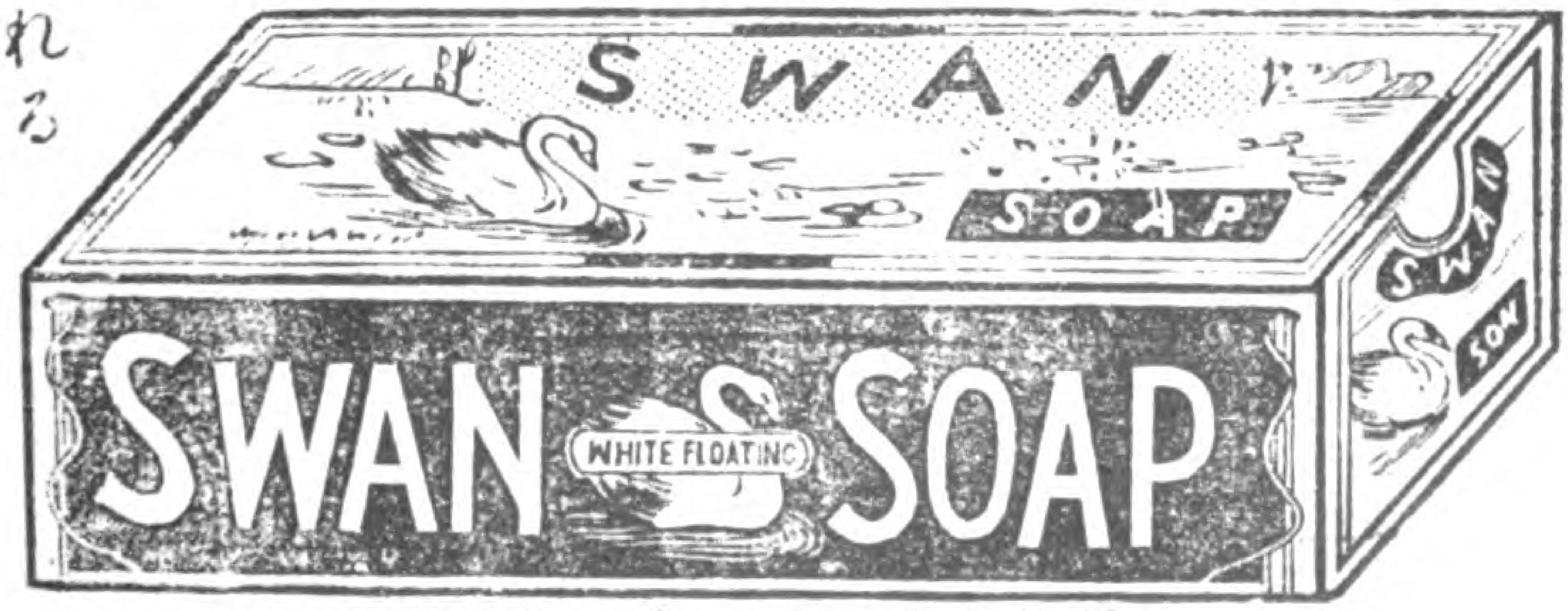
本舖　東京馬喰町四丁目　振替東京二〇五〇　山岸三之助　電話浪花三七九三

大阪支店・・・大阪南區堺筋鹽町二丁目七番地

英國製　スワン浮石鹸

家庭用

○入浴用にも化粧用にも安心して使へる最も純良な石鹸　○何處の御家庭でも盛んに愛用される最も重寶な浮石鹸



偽物あり　スワン鳥に御注意を希ふ

千代田香油本舖　山岸三之助

新女界第四卷第四號目次

（四月一日發行）

◎社説

◎感謝　安井主筆

◎本多先生の長逝　記者

◎教壇

◎我身のとげ　海老名彈正

◎想苑

◎歐米兒童の放課後の生活　棚橋源太郎

◎歐米に於ける女子教育の現狀　雀部顯宜

◎實際より見たる女子高等教育　重松茂野

◎雜俎

◎夢うつゝ　紫風

◎身にしみた親の躾け

△過渡時代の教育心　櫻井りう子

△父の愛　掛井岩子

△我が幼時　聖山生

◎支那の家庭事情　譚毅公

◎近時の少女雜誌　聖山生

◎家庭

◎和洋折衷主義　コーツ夫人

◎一風變つた我家庭　某夫人

◎隨感

◎女子高等教育と家庭の手傳　みや子

◎細かにはつきりと　よね子

◎一滴の涙なきか　みち子

◎彙報

▲兩女史の光榮▲宮川保全氏▲認可されし女醫學校▲キツダー女史▲二保姆の旌表▲兒童博覽會

◉編輯だより

新人第拾參卷第四號目次

（四月一日發行）

●社説

耶蘇の宗教意識の自己實現　主筆

●教壇

國家と基督教　海老名彈正

●苑想

儒教の宗教觀　井上哲次郎

予の見たる禪觀（一）　金子白夢

フイローンの哲學と基督教　額賀鹿之助

正味の基督教　白石喜之助

鄕土詩人グスターフ、フレンセンの基督觀（二）　大塚楠男

●文藝

旅恭　黒瀬二水

檜笠　蘆葉

●雜俎

予が著書の精神を明かにす　小山鼎浦

南洋寫生紀行　有田四郎

永生の歌　高田畊安

「生」の意義如何

△生に徹せさする欲求　白夜

△生の與ふる批判　快堂

△生は愛其もの也　二水

加藤博士の「自然と倫理」を讀む　聖山生

●聖書講義

馬可傳　海老名彈正

●評論

觀照と享樂との問題　森脇白夜

日本現時の哲學界　藤田快堂

●時評

本多庸一君の長逝を悼む▲三教會同の善感情▲詩人長江を懷ふ▲學生意氣の消沈▲ニコライ大主教の長逝▲通俗讀物の認定▲教會同盟の公開書

●彙報

▲教會同盟公開書▲兒童圖書館▲同志社大學▲佛書刊行會▲其他

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚くべき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

羽仁もと子著

理想の生活 靜子の卷

初版即日賣り切れ　再版出來

定價六拾錢　郵税六錢

目次

一　母の教訓
二　新世帶
三　知らぬ間の働き
四　忍耐の日
五　信仰問題
六　茅屋の主婦
七　月下の淸話
八　さま〴〵の望み
九　希望の曙光
十　砕けたる心
十一　惠まれたる家
十二　最も大なる賜

靜子と呼ぶ、若き主婦を中心として、その賢く正しく一家を經營する有樣を描き、また舊弊頑固なる姑に事へて、よく忍び、よく勉め、愛を以て遂にその頑なる心を和ぐるに至る道ゆきを記したるものにて、多くの暗示と、深き教訓と、限りなき慰藉に充ち溢れたる物語。

東京小石川雜司ヶ谷町　振替東京一一六〇〇番　婦人之友社　電話番町三六九八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四巻第四號

感謝

安井哲

常に感謝して此世を渡るといふ事は誠に美くしい事でありますが、實際は中々困難な事であります。私が曾て外國の寄宿舍生活を致して居りました時、或日校長と共に生徒一同食前の感謝をして夕食の席に着きました。處が其日の献立中に味の良くない物がありましたので、彼方此方で不平を鳴らし初めました。そこで私が戯れに「一瞬間前には何といつて感謝をなされましたか」と申したので、皆大笑ひを致した事がありました。吾々の感謝の生活は大抵こんな類であります。何か欲しい物があれば「假令少量でも」と熱望し、受取つて「後はこれ位か」と不平をいふやうな事は常でありまして、況して萬事意の如くならぬ場合には、心亂れて世の中のあらゆる物は皆不平の種となるのであります。

昔の男子は出來るだけ心身を錬つて天晴れなる武

士たらんと決心致しました故、現時に比すれば教育の程度は高くなかつたにもせよ、困難に打勝ち得る所の立派な精神を有つて居りました。今の私共は親切な教授を受けて、そんなに自分で苦しみませんから精神の訓練に缺くる所があります。昔の青年は有名な先生の塾に入つて刻苦勉勵自ら進んで嚴格な躾を受けましたが、今の私共は成るべく氣樂な學生生活を望み、自ら進んで精神の鍛錬を受けやうと望む者も少ければ、與へやうとする者も少いのであります。故に苦痛に對して感謝する如きは殆どあり得べからざる事のやうに思はれて居ります。

私は曾てある外國の先生に連れられて山登りを致した事がありました。初めての登山でありましたから非常に疲れて、歸宿後は直に寢室に入つて休息したいと思つて居りました。然るに夕食が終るや否や先生から、宿より程遠からぬ海岸に散歩をするから同道せよといはれました。今夕は足が痛くて到底お伴は出來かねますと辭しました處が、是非にと無理

に連れ出され、泣く／＼二時間許りも歩かせられた事がありました。此時には「實に殘酷な先生よ」と恨めしく感じましたが、翌日はそれがため却つて足の痛みも減じて再散歩する事が出來ましたので、恨みは却つて感謝に變りました。吾々が心ある先輩から折々受くる訓練は之れと同意味の者でありませう。唯其の眞意を解しませんので、時には之れを恨む事があるのであります。

角力をするにも日々の稽古を積まねばならず、音樂繪畫皆其通りであります。凡て何事でも苦勞せずに出來る者はなく、困難を犯して得た結果こそ初て無上の快樂が伴ふのでありませう。心の修養も亦之れと同樣で、あらゆる境遇に其身を試みて、初めて不屈不撓の確固たる精神を得るのであります。之れに依つて觀ますれば、感謝は獨り心の滿足に對する喜びの情のみでなく、困難に處して力試しせんと勇み立つ場合にも起る喜びの情であります。

文明が進むと共に生活上に種々なる困難が起つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來ますから、吾々は常に平和の戰爭をなして居る者であります。曾て某軍人が軍略上攻戰の利あつて守戰の不利なる事を説かれましたが、平和の戰爭にも亦此理が應用されると思ひます。卽自ら進んで困難を迎ふる者は戰勝を得、受身に之れを防がんとする者は數失敗を招くのであります。進んで困難に當らんとする覺悟の中には、萬難を排せんとする勇氣と力試しせんとする樂しみとが含まれて居りますから、感ずる所の困難の度は實際よりも遙に低くありますが、之れに反して、止を得ず困難を防がんとする者は、元氣既に沮喪して、心は恐怖と煩悶とに充たされて居りますから、困難の度は其の實際よりも余計に感ぜらるゝのであります。此場合に於て二人の位置には非常なる懸隔が御座いませう。其故に吾吾は此世の戰爭に戰ひ疲れて、悲歎に暮るゝよりも、常に强敵を迎ふるの準備を心に存して、勇ましく樂しく其勝負を決する覺悟を有ちたいのであります。

私の知人に身體の非常に壯健な人がありました。常に平和な生活を送り來つて、未曾て何物にも信賴する必要を認めませんでした。ところがある時外國旅行中に圖らずも病に犯され入院致ましたが、心細さの極此に初めて神に祈つたと申して居りました。

「苦しい時の神賴み」とは能く申した事で、吾々は人間の力で如何ともする事の出來ぬ時には、一心籠めて神の救ひを求めますけれども、幸にして其れを無事に通過しますと、次第に感謝の念が消えていつて、何事も吾れ一人の力で爲し得たやうに思ふのであります。恰も貧しい時に借金して、其瞬間は喜びに充ちて居るが、費した後には其恩を忘れて、終には其人を恨む様になるのと同理であります。實に困難な事は感謝の念を持續けるといふ事であります。假令信仰を有つて居る人でありましても、思ひもよらぬ不幸に出逢つた時や、不幸に不幸を重ねた時なぞには、一時絶望して何等信賴する者を有たぬやうな心狀に至る事があるものであります。かゝる際に於ても能く心の平和が保たれ、與へられたる運命に

從順である人は實に賞讃すべき人であります。

要するに吾々の一生には波動が多ありますので、之れに應じて心は浮沈し易く、時としては失望の極其身を殺さんとまで悶ゆる事があります。併しながら人生には必ず何等かの苦痛が伴ふ者でありますから、初から如何にして之れに當らんかの覺悟を有つ事が必要であるのみならず、幾回も之れと奮闘する間に心は自然に鍛錬されて、之れがために勇氣も養はれ希望も出來、且又他人の苦痛に同情し得る場合が多くなるのであります。かゝる貴い心狀は實に苦痛より得たる賜物で、之あつて初めて價ある生活をなす事が出來るのであります。かく考へて來ますと吾々は困難に對する時でも倘幸福に對する時と同樣に感謝する事の出來る者で、之れが充分に練習されますと、心は常に感謝に充ちて居る樣になるのであります。

憶本多庸一先生

本多先生、旅行先、長崎に於て病に罹られ、然もそれが腸窒扶斯と聞いて、吾等も切に祈つたのであつたが、電報は、二十六日午前十時三十分、遂に永眠を報じて來た。嗚呼本多先生は遂に逝かれたか。遂に召されて神の國の人となつたか――あの玉のやうな美はしい御人格に、最早、地上に相見ゆることは出來ないか。

聞く所によれば、先生は未だ曾てこんな旅行に奥樣を連れられた事はなかつたそうだが、今回は珍しくも『一所に行かう』とすゝめられ、奥樣も氣乘りがして同行せられたそうである。端なくも旅行先きの病床に、初めから終まで侍づかれたのは、責めものお心やりであらう。さるにても曩には愛孃を喪はれ、今また先生にお別れになつた、奥樣の御心中はお慰め申す言葉がない、唯祈るのみである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我が身の刺

海老名彈正

パウロが多くの人に愈りて神の惠を受けた信仰の人である事は誰しも承知する事であらう。そのパウロは年來堪へがたい一種の苦しみを持つて居た。それを彼自ら稱して我肉體にある刺なりと云ひ、或は他の言を以て、彼を撃つサタンの使者なりと云つてゐる。餘程苦しいものであつたらしく察せられる。その苦痛は果して何であつたらうか、昔から多くの學者が頻りに研究した所であるが、近世に至り、それは確に一種の病であらうと云ふ事に一致した。病氣は昔はサタンの仕業であると考へられて居たからパウロも我を撃つサタンの使者なりと云つたと思はれる。さらば此は如何なる病であらうか。パウロは之を取除かるる樣に再三再四神に祈願したがそれでも神は取去り給はなかつた。その病は果して何んな病であつたらうか。これは定めて一種の神經痛で恐るべき痙攣、天癇病の類であつたらうと察せらるゝ。パウロがガラテヤ人に書き送つた手紙の中に自分が圖らずも激烈な病氣にかゝつてゐた時、汝等は我を卑めず、又厭はず、反つて同情して天使の如くに吾を受け入れて呉れ、吾爲に如何なる世話をも辭しなかつたのは、實に忝けないと頻りに謝禮を申してゐる。是等に依つて見れば、この病に襲はれた時は、誠に見苦しい姿になつて、誰からも輕蔑されさうな樣子になるものと見ゆる。さながらサタンの使者に撃ち倒されてみじめな樣子をすると思はるゝ。パウロに取つてはかくの如く精神錯亂せるが如き、自ら

制し能はざる一種の病に襲はれる事は眞に大恥辱と考へたであらう。しかしそれが神の御教を傳へる最中であらば、猶更のこと、恰も自分の主張が無になつたかの如く感じたこともあつたらう。この病とパウロが色々の異象とを見る事との關聯の爲に、倘更反對者からパウロの主張は神より賜はつたものにあらずして、惡魔の業なりなどと罵詈を浴せかけられた跡もある樣である。これ等の爲にパウロは非常に苦しんだ揚句、遂に神に再三祈つて取除かれん事を願つたが、とう／＼取り去られなかつたといふ。

斯の如き苦痛の事は決してパウロのみに限らず、又大人豪傑のみに限らず、顧れば我々の中にも、假令病の種類は異つても、何か一種の持病があつて色色と名醫にもかゝるが、更にその効なく、又神に祈願を込めても何の効顯も見えず、或は死ぬる迄一生涯免れぬ者かと思はれる樣な病に苦しめられてゐる者がある。聞く所に依れば英國の先帝の皇后陛下にも一種の御病があつてその爲始終御頸卷を外される

事がなかつたと承つてゐる。況んや其他の人々にあつては思ふ樣に治療もなり難く、あきらめて不治の病と考へ苦しんでゐる人は多い。それからこの苦痛の種なる病はその身一個の上ならずして、親とか子とか兄弟とか夫妻とか、近親の身の上にある事がある事がある。自分の身上ならば、或は英斷をして如何とか出來ない事はないが、他の人の身となれば、益す難事である、誠に詮方ない。しかして其が自分に取つて一の刺となつて心を苦しめる。親として子の爲に刺を受け、子の爲に名譽を毀損せられ、地位を失はねばならぬ事もある。又反對に折角有難いと思ふべき親の爲に自分が不名譽を荷はねばならぬ事もある。或は兄弟の爲に身の刺を感じ、又夫は妻の身の刺となり、妻は夫の身の刺となり、始終堪へ難い苦痛を與へる事がある、どうも詮方ない。これこそ實に人生の堪えがたい苦痛である。

人の心の中に入れば其處にも又堪へ難い刺がある心の作用の不完全は自分で承知しながら、生涯苦し

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

められるのである。例へば心中自ら嫌に思ふ所の卑劣な性質があるが、自分も嫌であるから、勿論人も嫌つてゐると承知し、眞面目に努力して之に打勝うと試みて居るが、どうも力及ばずして始終苦しめられてゐる、或る人は生涯怒に惱まれて居る。怒其ものは決して惡くない吾々は偶ま怒に依つて救はれる事さへある。がその爲に人をつまづかせたり。自ら不利益を招いたりするは少くない。是れが生涯自分の刺となつて、自分をなやますに至る。これ等皆忍び難い人生の苦痛である。人情に今昔の差なく東西の距りなし、誰しもこの刺が取り除かれる樣に神に祈願を奉る。然しながら神は之を取除き給はぬ事がある。こゝに於て淺薄な者は之を惡意に解し、神樣ならば直に之れた取り去つて吾をこの刺から免れしめ給ふべきである。しかるにかく迄祈つても取り給はぬと云ふは、恩愛の神の思召は奈邊にあるのか神は吾を捨て給ふたかも知れないなどと怨の言を述べ、遂に若し神いまさばかくも吾を苦しめ給ふ事はない筈だ。して見れば神の存在こそ疑はしとて、自暴自棄の極、亂暴になり、失望落膽し、それからそれと惡い考を起して、刺のわづらいの爲に自ら亡びなんとする事がある。もし信仰の厚い者ならば、此際之を善意に解して、我が身の刺を善用するのである。こゝに信仰の有無の相違が認められる。

先づ之をパウロに見るに、流石に彼は信仰の篤い人であつたから、刺を善意に解釋した。曰く神刺を我に授けサタンをして撃たしめ給ふは、自分が神の惠に傲ぶらぬ爲である、傲ぶる憂患に陷らぬ樣刺を授けて人々の前で吾を辱め給ふものであると。誠に之はパウロの口から出でゝ然るべきものである。何となればパウロは多くの人々の中に勝れた天禀があつた、天才殊に宗教的天才に至つては基督に亞ぐ識見と美しい考へとを有して居た。彼自らも云ふ神の惠に依り吾はペテロ、ヤコブ、ヨハネの如き先輩に優るものがある、神は吾をして彼等よりも大なる事業をなさしめ給ふと。これは天才の有難い所であ

るが、こゝに怖るべきはその才能に負けて、爲にその本領を奪はるゝ事である。人は才の爲に亡びに陷ることも往々ある。パウロは之を自覺してゐたが故に吾心の傲が長ぜざらむ爲神が刺を授け給ふたと云つてゐる。實にパウロにして此の病なかりせば、それこそ獅子に翼を與へた如く、天上天下縱橫無盡に飛躍が出來た事であつたらう。しかるに刺ありて進まんとして進まれず、始終それが爲に累はされ、妨げられたのである。神之を以て吾傲慢を防ぎ給ふとは實に天稟の英才、英雄の風姿ありし人の言として、然るべきものである。この意味に於てパウロは刺を感謝して受けたのである。啻に之のみに限らず、更に一歩を進めて彼は刺を倘善意に受け取つたものがある。彼はこの病の爲に弱くなつて、普通人と伍する事が出來なくなつた。然るにも拘はらず壯健な人の爲す以上の事業が出來た、彼は自分に非凡な力があると自覺したが故に、その強い所は己より出づるに非ず、己は刺ある弱き者なり、神自からが我を用

ゐて偉人も爲し難き大事を爲し給ふのである。故に吾弱きは神の強きを顯はさん爲なりと云つて、刺を以て神の榮を發揚する機會とした。是れその信仰の健全なるより出でたものと云はざるを得ない。

吾々に取つては吾々の職業性質の異なるが如く、身の刺にも種々あつて人に依つて見方を異にするは當然の事である。例へば學生青年に取つて見れば、眼病に罹つて色々手段を講じたにも拘はらず、遂に善き結果を見ず、これでは生涯盲目と決心するより途がないと云ふならば、肝心の讀書が駄目である、誠に堪へ難き苦痛であると云はねばならぬ。しかるに若しその人が信仰ある人ならば、この眼疾と云ふ大なる刺も反つて益をなすものである。かの身體健康にして諸機能の完全なる人が信仰を以て充分神の道基督の敎の爲に働くと云ふ熱誠のあるのは、尤結構な事であるが、深い宗敎的信念の點より見れば何となくそれでは至らぬ處がある。人生には反つて正反對の處に尊い生活が見られる。この熱誠止むに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

止まれずして然も病の爲に働く事が出來ない。乃至は親兄弟等の係累があつて出來ない事がある。親兄弟などを捨つる事は易い、されど此等の保護を任じて立つは我が務である。愛子を據より蹴落して行かれぬ事はない。されど天地の生ける神を信ずる者としてはかゝる非常識又無慈悲の事は出來ない。こゝに雄大なる精神を抱きながら、民族や世界の爲に盡すべき力量は有しながら、しかも係累のあつて立つ事が出來ない。これ取り除かれない刺である。技量の自覺あればある程係累が益刺になつて、遂に苦境となる。この苦境に際してこの刺を如何に善意に解するか。パウロは云ふ各々その召れし時に在りし所の分に止るべしと。この言は何の點迄適合せらるだらうか、深い意味を有つて居る。もし奴隷の境遇にあらば、奴隷を以て安んぜよ。不幸なる家に基督者とならば、その不幸を忍べ。自分の幸福の滿足を獲んが爲に、恣なる行動を取る勿れと云ふのであらうか。その境遇に籠居するは勿論忍び難い苦痛であるに違いない。自分には此の如き才あり、能あり、而も之れ無用の長物となさねばならば、誠に無念であらう。されど此の時苦情を云はず、不平を訴へず只管神に信頼して運命を任せ奉る、この所に亦人生の妙味がある。是れは諦めである。されど佛教に所謂因果ではない、詮方なしと云ふのではない。基督者の神は因果の神ではない、動かすべからざる法ではない。意志ある神である、御心に依りて何事をも如何樣にもなし得る神、祈らば聽き給ふ神である。決して因果ではない、善因善果惡因惡果、どうも仕方がないと云ふのでない。かゝる因果ならば仕方なしと諦める事が出來るが、我々の上に意志を以て禍を除かば除き得る神がある、しかも除き給はないのである。出來るのになし給はぬのである。一層恨は深い、諦める事は出來ない。且理屈を以て不平を云ふ事も出來る神であるから信仰の足らぬ者は飽迄も苦情不幸を云はふとするのである。信仰の篤い者は萬事を御心のまゝに爲し得給ふ神に總を捧げて

信頼し自分の希望は措いて神の御心のまゝになし給へと萬事を任し奉るのである。自分には熱誠あり、技量あり。凡て之を善の爲に盡さんとして、而も盡す事の出來ないのは斷腸の至であらう。再三祈つても而も聞かれず、速に我願を祈りて、さらばとて神の御心に任せ奉ると云ふは、宗教の非常に尊い深い所である、祈禱の神聖なるは蓋しこゝに存すると思はれる。さらば此處に於て吾人は絕對的諦めを執るかと云ふにさに非ず、吾々の神は恩愛限りなき親にまします。しかるにその神が吾々を虐げ給ひ、刺を以て制し給ふ誠に堪へ難き所である。これを忍んで信頼し奉る。その精神狀態は恰も嬰子の母に對するが如くである。人はこの赤子なる精神狀態を永久に失ふべからず。最尊い美しい心情は赤子として天地の父なる神に對する信頼の狀態にある。吾々が我身の刺を善意に解する時は遂に天の父に信頼するに至らしむるのである、實に尊くも亦幸な實驗である。我が身の刺は誠に吾が逸る心を制御するものであり、傲らんとする心を導いて、謙遜ならしむるものであり、又神を遠く離らんとする時、之を妨げて再び神の前に平伏せしむるものである。誠に消極的の言を爲すものの如きも、宇宙間には確に消極的の分子をも必要とする。常に吾々を防碍する者臆病ならしむる者、これ遂には吾々を珠たらしむるものである。基督者はこの刺の取り去られんが爲に神に祈らねばならぬ。されど神之を取り給はずとて、若し失望し不平を起す時は、刺と共に吾身を亡すに至る。この時こそ大御心に信頼してその刺いかに苦しくも之に堪へ、不平を唱へず苦情を訴へず、これにより益々淸からしむる所あらば、その刺の間に紅の薔薇白き薔薇花が淸き露を浮べて開くのである。人生は薔薇である、刺もあり花もあり、刺と花とは雙子である。刺を殺さば花も死する。刺なき薔薇には花はさかぬ。世にも目出度き薔薇の花は久方の天の流にその色香の姿を宿す。天の使も之を見て、自分の姿に優る聖き美はしき姿となす、何故か。

想苑

歐米兒童の學校外の生活

棚橋源太郎

△兒童の放課後の生活

田舍と都會とは大部事情を異にして居るけれど、先づ都市に就て云ふと、歐米の都市には至る處の辻辻には小公園があり、夫れに公園の數も少くないので、學校兒童の放課後の遊び場所は主として此小公園と公園とである。されば我國の兒童のやうに電車の走る、人馬の往復の繁き所で勝手な遊びをして、公衆の邪魔をすると云ふ樣な事は殆んど見られないのである。併し裏通の人の通りの少い處では少しは子供の遊んで居るのを認めたのであります。

獨逸などでは學校兒童の校外に於ける取締に對しては、學校の教員校長までが其の責任を持つて居るので、其季節々々に應じて、學校でも相當な訓諭を與へ、兒童の校外の行狀に就て取締を怠らないのであります。法律の上でも亦特に兒童の行狀を取締る事になつて居つて飲食店に上つたり、アルコール飲料を買ふ事は勿論、其他の飲料や菓子果物と雖も、小供自身で買ひに來た場合には賣らない事になつてをります。唯だ十四五歲位の小學校を了へたばかりの小供が路上を卷煙草を燻らして步くのを屢々見受けましたが、之は取締の行屆いた國としては不似合であると云ふ感を起さゞるを得ませんでした。併し

大體に於て小供の屋外の生活には全り干渉をしないのであります。そして彼等が遊ぶに都合のよい種々の設備をしてあるのであります。例令ば公園には砂場を設けまして、鋤を持て來て、子供が勝手に堀り散して遊ぶに任せてをるのであります。

小供の自由を妨げない一例としてお話したいのは私が伯林滯在中シアーロッテン、ブルグの練兵場で見たことであります。或時練兵場を通りかゝると、一個小隊ばかりの兵士が一將校の指揮の下に、假設敵を装置して、夫れに向つて伏射をしたり、行進をしたり、散兵の隊形をとつたりして、盛に演習をして居つたのであります。所が其邊の子供が面白がつて一々棒切を以て鐵砲に擬し、散兵線の中にはいつて、兵士と兵士との伍間に入つて、射撃の眞似をしたり、士官が「前へー」と號令すると、兵士の先へ立つて走り出すと云ふ有様であつたに拘はらず、兵士は勿論、士官までが何も小言を云はなかつたのであります。其時私は遉は軍國である、先進國であると云ふことを感じたのであります。七八年の後には此子供の多數に同じ軍隊生活をさせなければならぬので、甚しい邪魔はならない限り、何等小供の遊びを制限する必要はないのであります。

伯林では市外れに近い空地を購ふて學校兒童の遊び場に供し、敎師に相當な手當をやつて、放課後にはソコへ連れ出し、日沒まで面白く遊ばせる事になつて居ります。之れは小供が學校外で不良な生活をなし、社會の惡影響を受けしめぬやうにする利益があるのであります。獨逸の休日は日曜と水曜日の午後でありますが、英米では土曜日が休日になつて居つて、日曜日は聖書講義や日曜學校へ行く日になつてをります。歐米を通じて休日には兒童は父兄に伴られて公園や郊外へ遊びに出るのでありますが、又種々な青年會とか少女會とか、少女倶樂部とか體操遊戯會とか、ボーイスカウスなどの會から、子供を野川や森へ連れ出して遊ばせながら、よい敎育を與へる事になつてをります。動植物園、水族館、博物

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

館なども休日には大概無料にしてあつて、自由に觀覽する事が出來るやうになつてをります、興業物は成人と小供との區別がしてあつて、活動寫眞の如きも隨分如何はしいものがありますが、併し其時は何時も入口の所に「成人に限る」と張札がしてあつて、小供はゝいれないやうになつて居ります。

　彼地では晝間ばかりでなく、少年兒童のためには夜間の遊び場にも注意がしてあります。夫れは卽ち前に申しました、少年少女の俱樂部の樣なものでありまして、之れは婦人會や、其他の慈善團體の經營になつて居りまして、ソコには小供のための圖書館もあれば運動室もあつて、體操や舞踏や唱歌を無料で敎へてくれ、時々有益な講演をも聞かせてくれるのであります。啻に種々な事を見せたり、聞かせたりするばかりでなく、時には子供音樂會や子供芝居を催ふして、彼等自らをして舞臺にのぼせ、之を演ぜしめて樂ませるのであります。夫れに種々な細工場があつて印刷、籠細工、木工、金工と云つたやうな、種々な手藝をも無料で敎授して、他日の職業上の素地を作る樣になつて居ります。日曜日に少年少女を郊外などへ引卒してくれるのは多くは、此種の會であります。

△小供圖書館

　小供のために公開する圖書館は此外にも市の經營にかゝる通俗圖書館の一部として、到る處に設けられてをつて、夫れには貸出部、讀書室などがありまして、市の住民であると云ふ證明さへあれば無料で自由に入場をして、低い安樂な椅子にかゝつて、低い書架から勝手に書物を取出して來て讀むことも出來れば、又許可を得て家へ借りて歸へる事も出來るのであります。又室內には小供を樂しましめる樣な裝飾畵がかけられ、萬端の世話をする人は皆婦人で優しい言葉で親切に取扱つてをります。私は彼地に滯在中二三の小供圖書館にはいつて見ましたが、如何にも居心地のよい、行屆いた設備であると何時も羨しく感じたのであります。裝飾畵と申しましたが

獨り之れに止らず、小供に與へる繪本の繪の如きも近來非常に改良を加へて、教育家美術家の考案になつた、子供繪と云ふものが、盛に利用されるやうになつたのであります。大い輪廓に陰繪や濃淡を用いないで彩色の如きも平塗にして、成るべく單純な明瞭な描きぶりをしたもので、一見我國の浮世繪見たやうな感がします。而して其題材の如きも勿論兒童の思想界經驗界に取つてあつて、見るからに如何にも小供の趣味に適し引つける樣な感がいたします。夫れで又此の種の畵が、有數な著名の美術家の筆になつたものであります。藝術品ばかりは小供相應と云ふ原則は適用は出來ないので、矢張一流の畵家の手になつた眞の藝術品でなければ趣味の教育には効力がないのであります。私は此の種類の小供圖書館や圖書室や遊戲室や、教室の壁にかけて裝飾に使つてをる小供繪の石版物を數枚持つて歸つて、お茶の水聖堂の教育博物館へ陳列してをきましたから、趣味のある御方は、おとほりがけに御覽を願いたいのであります。

繪本ばかりではありません、彼地では少年讀物の撰擇には非常な注意を拂つて、小供圖書館や家庭で讀むものゝ種類には十分の撰擇が加へられております。小供圖書館に行けば父兄のために、小供に讀ませて害のない少年書類の目錄が印刷されてをつて、無料で誰にもくれる樣になつてをります。又大概の市には少年書類審査委員會と云ふものがありまして小學校の教員校長などが主として之に當り、毎年新刊のものを取よせて、教育上から其適否を審査し、毎年クリスマス前までには目錄を作つて父兄に配ると云ふ樣な仕組になつて居ります。日本に歸つて宅の小供等が見てをる盛裝したお孃さんの寫眞などを無暗に幷べたり、小供の作文などを矢鱈にのせたりした賣主義な、虛榮心を增長させるばかりの雜誌などを手にして居るのを見たり。又俗惡極まる繪本などを見るにつけても、私は一日も早く我國にも今申した樣な組織の出來る事を希望せざるを得ないので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あります。若しも我國の青年子女が耽讀せる小説類其他の不良讀物を檢査したならば、其の惡影響の大なる、實に寒心すべきものがありませう。

△兒童の家庭の生活

彼地に居ります間、瑞士と米國とでは小供のある知人の處にお客になつてをりましたので、彼地の子供が家庭でどんな風に生活するかと云ふ模樣を觀察する便利を得ました。彼地では小供のために細工場が設けてありまして、小供相應な細工道具が備へられてあつて、雨降りなどで屋外に遊ぶことの出來ない時は勿論、暇さへあれば細工場に行つて鋸を持たり、針金を曲げたりして暮すと云ふ風であります。又庭園の片隅には花壇、野菜畑、果樹園の少さいのを與へて園藝を遊び仕事にさせてをるのもありました。夫れで勸工場などの玩具部に行つて見るとこの小供細工場に要する道具類や農具などが玩具として盛に陳列されてあるのであります。猶之に止まらず小供が自分で細工をしたり、耕作をしたりするための參考としての少年讀物が、盛に出版されつゝあるのであります。此種類の少年讀物には、

『自分で各種權衡の作方』『噴水ポンプ各種紙鳶の製作法』『寸燐箱、各種玩具製作法』『人形芝居劇場、人形家、家庭舞臺、各種家具製作法』『卷煙草、帆かけ船、電鈴、バルコニ電池の構成、望遠鏡、幻燈、顯微鏡の製作法』『暗葉の製作法』『陸屬器の製法、各種製本』『書卓の裝置、書架の製作法』『各種蒸氣汽罐模型製作法』『手工道具棚、各種錢及裝飾品、ニツケル鍍金、針金細工、小玩具の製作、各種額面製作法』『子供芝居各種舞臺用具、寫眞、器械圖畫器械の製作法』『鐵道模型 繰釣人形、各種幾何形體の製作法』『花壇 菜園、果樹園の經營法』

と云つた樣な種類のものがあります、さすがは米國であります。兒童は元來かゝる製作を好む天性を持つて居るものでありまして、玩具などにした所が出來上つたものを與へるより、子供ながらに、簡單なものを製作することを喜ぶものであります。私は

歸朝して日本の玩具店を見て、子供の智識の啓發と云ふことに、殆んど何等貢獻するものなきを失望したのであります。どうぞ我國でも兒童の家庭遊戲として、以上あげた樣な細工場とか、花壇とか云ふ類のものが採用されるやうにしたいものであります。從て之に要する用具を工夫して、玩具店などで賣らせる樣にしたいものであります。同時に又世の少年書類の作者諸君に向つては、之が參考となる樣な兒童讀物の著作を希望する次第であります。

（談話筆記　文責記者）

歐米に於ける女子教育の現狀

文學士　雀部顯宣

私の見る所ろを以てすれば、現今世界の中、教育制度の發達したる點に於て米國は第一等に位する國であると思ひます、其點は實に偉いものであります。私は初めに米國を視察いたし夫れより英國を經て獨逸に參りましたが、後の二ケ國を見て、尙更米國の教育事業の進歩に驚いたのであります。殊に女子教育に於ては慥かに他の企て及ばざる進歩發達を遂げて居ります。元來米國は中學校までは自由教育制度でありまして、何人も無月謝で通學することが出來ますから、大抵の人は中學までは必ず修業させるので、貧乏人と雖も、何とかして中學まではやらせなくては、と云つて樣な風で國民全體が中學校を卒業させぬと云ふことは、大なる恥辱の樣に心得てをるのであります。之れは小學校でさへも何等かの方法によつて、月謝を徴收する我國などとは大した相違であります。

そして御承知の通り米國は男女共同教育でありまして、殊に中學までは小學校と同じく、全然同樣の

取扱ひをするのでありますから、此點は女子も男子と何の異なる所はありません。皆中學は卒業させるのであります。私は彼國では暫くウースターに居りましたが、私の下宿してをる家の娘は藥種屋の計算係を勤めてをりましたが、下宿屋の娘であつても中學を卒業してをりました。又その娘の友達の誰彼れが、時々訪ねて來ましたが、皆中學の卒業生でありました。一人の娘の如きは牧師の娘とかで、矢張り或る商館の事務員でありました。牧師の娘が商館に通ふなど申しますと、一寸おかしい樣ですが、彼地では平氣でありまして親も働けば息子も娘も働く、夫婦共稼ぎなどは身分のよしあしに拘らずやつてをるのであります。彼等娘達の語る處を聞けば、皆此儘ではつまらぬから、今少し勉强して試驗をうけねばならぬ。(普通文官試驗の樣なものでせう其試驗で一つの資格を得るのです。)夫れに合格すれば給料が余計に取れるから　金を取つて高等の學校に入らねばならぬとか獨立して行かねばならぬとか申して居りました、彼等は實に向上發展を以て理想として居るのであります。

一般の考へがこう云ふ風でありますから女子の高等敎育も驚くべき進歩をして居ります。私は初めに西部の諸大學を見ましたが、何れも男子と同樣に文學哲學は固より、理化數學其他の諸科に至るまで、男子と席を同じくして熱心にやつて居ります。西部の諸大學は殆んど皆共同敎授でありますが、東部諸州には單に女子のみを收容する大學が幾個もありまして仲々完備したものであります。ボストンの近郊にあるウエルヅレー、カレッヂの如きは今日一千人以上の學生を有し非常に盛なものでありますが、其敷地の廣濶な事と云ひ、校舍の壯麗な事と云ひ、内部の整頓せる事と云ひ、實に驚くべきものでありまして、其の生徒の活潑にして、快活なる擧動を見、或は敎場に於て悠揚迫らざる態度を以て、高尙なる學理を研究しつゝあるところを見ると、何處に男子に讓る所があらうぞ、と思はざるを得ないのであり

ます。斯く女子教育の進んだ國で、女流に立派な人物も多いのに、何故か婦人で校長となつて居る人は少いのでありますが、此大學の校長は婦人であります。歸朝してから聞けば此人は中島博士と同窓の人ださうです。此大學には我國から留學した人が少くないので、唯今お茶の水に教鞭を取つて居らるゝ武田欽子女史　岡田光子女史及び小此木まつ子姉の如きも、皆此校に學ばれたのであります。

私は一度此校の卒業式に參りましたが、數百人の出身者が、夫れ〳〵立派な風采で、整然として定めの席につくと、各級の生徒が威儀堂々、列を正してはいつて來る、千五六百もはいる大講堂が立錐の地なしと云ふ有樣でありましたが、其時私は盛なる哉と思はざるを得ませんでした。

其他コロムビヤ大學の教授達の經營するチヤーチス、カレツヂ。マウント、ホリヨークのスミス、カレツヂなども見ましたが、何れも皆數百名の生徒を有し、設備も内容も充分整頓し、盛なものでありました。

猶ほ私が意外の感に打たれたのは家政科大學とも申すべき、ボストンのシイモンス、カレツヂであります。私は之を參觀しまして、其組織の大なるに驚かざるを得ませんでした。校舍なども實に立派なもので、日本などでは滅多に見られない位でありました。其科目は料理、裁縫、洗濯、園藝其他家政に關することは勿論、銀行會社員等になる準備まであるのでありますが、私は其の設備の整へるには一驚を喫しました。例令ば料理の教室を見ましたが、其の室は黒板を中心として、プラツト、ホームの兩側にはチヤンと、物を煮るところもあれば調理する臺もある。洗ふ處もあれば、材料を仕舞ふ處、道具器物を片付ける所、何から何まで實にうまく備はつてあつて、而も一糸亂れず、立派な教室然としてあるので、必要に應じて講義と共にどんな料理でも、立所に出來るのでありました。其講義は元より左程高尚なものではありませんが、兎に角こんな風に料理裁縫を初めとし、すべて女子に必要な學科を學理と

實際との兩方面から深く敎へると云ふことは、實に感服の外はありません。之等は他の國では殆んど見ることの出來ない現象であると思ひます。

英國ではオックス、フォードに暫く滯在いたしましたが、オックス、フォード、ケンブリッヂ、ロンドン等に女子のカレッヂはありますが、校舍の完備せる點より云ふも、又生徒の數よりいふも、之を米國に比すれば、とても比較にならぬのであります。ロンドンでベッドフォードに女子大學があると聞きましたので、行つて見ましたが豫期したよりも小規模の者で、頗る不滿足の感を抱いて歸りました。一體英國人は米國人に比して大に國民の氣分が違ひまして、各々其分に安ずる風かあります。私の下宿してをりました家は商家でありましたが、其家に女學校を卒業したばかりの娘がをりました。主人と云ふは普通の人であるけれど、中々利巧な男で、少からず金もためて裕福に暮して居りましたので、私が娘に向ひ、お前の樣な家で勉强せぬと云ふ事があるものか、日本などですらお前のやうな家では大學までもやらせるのである、モ少し勉强したらどうだと申しましたら、イヤ私共の身分では之れで澤山です、此上學問など入りませんと答へました。之れは一例にすぎませんが、米國人が内職をしても子供に高等の敎育を授けねばならぬと云ふ意氣込とは大なる相違で、よく兩國の敎育狀態を現はしてをります。尤も之れは米國は中學まで無月謝であるが、英國は中々高い月謝を拂はねばならぬと云ふこともその一原因でありませう。

英國ではケンブリッヂ、オックス、フォードなどの諸大學でも女子の聽講は許しても、學位はくれぬので、此頃やつとロンドンやエデンボロや、グラスゴーの諸大學で女子に學位を與れるやうになつた位であります。米國に比して敎育制度の劣つてをると云ふことは英國人自身にも之を認めてをる人が多くありまして、米國の敎育制度の發達を賞讃して暗に之を奬勵した著書などもあるのであります。之を要す

るに英國の女子教育は割合に進歩して居らぬと云つてよからうと思ひます。但し之れは米國に比して云ふことで、日本などの現狀に比して申すのではありません。彼等は實にエライものであつて、先に申しました私の下宿した家の娘にした所が、普通の女學校出であるけれど、よく社會百般の事情に通じ、常識の發達せるは驚く程でありまして、自由黨がどうの、婦人參政運動はかうのと、滔々と政治論をやりましたが、其見識も批評眼もチヤンと備はつて居るのを見ました。其の點は日本の娘達には望まれない所ろであります。

　獨逸となりますと又英國に劣つて居るやうに思ひます。獨逸は頗る日本と似通ふた所がありまして、仲々保守主義の國で或地方は今日でもそうでありませうが、ツイ近頃まで婦人なんかに學問は入らぬ、家に引込んで居ればそれでよいと云つた樣な風があつたのであります。從て女子の高等教育の如きは隨分問題となつたものゝ樣で今日ではそんな事はないが、熱心な女子高等教育論者なる某博士の如きは、初めは非常に新聞雜誌の攻擊をうけた位であつたと云ふことであります。

　こんな風でありますから、女子大學として見るべきものは先づないと申してもよろからうと思ひます尤もミユンヘン、ベルリン等にあるにはありますが極めて不完全なものであります。私が滯在してをる間にライプチヒに一の女子大學が出來たとの事でありましたから、行つて見てみましたが、之れはこれまで幼稚園から小學校高等女學校まであつたのを、此頃其上にカレッヂを設けましたので、校舍も下が幼稚園で二階が小學、高等女學校、三階が大學と云ふ樣なわけで、創業の際でありましたから、別に見るべき程のものもありませんでした。

　但しこゝに特筆すべきことは師範教育であります師範教育に於ては獨逸は實に世界に秀でたるものでありまして、此點は英米とも獨逸に一歩を譲らねばなりません。米國の如きは師範學校は女子の學ぶべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

き學校として男子は之れに學ぶことを恥としてをる位でありまして、小學校の教師は女子の專賣になつて居るのであります。夫れ故、米國の師範學校を參觀すれば男子は二割位しか居りません、大抵は女子であります。或時私の知る所の人が或人と話してをる所を聞いてをると「ウム、あの男もどう〳〵師範學校に入つたか」と語つてをりましたが、其語氣はたしかに輕蔑の意味が含まれて居りました。こう云ふ譯でありますから米國の師範教育は、他の方面に比して遙かに劣つてをるのであります。ところが獨逸では師範教育は實に完備したものでありまして、特に其教授訓練の如きは、至れり盡せりと申しませうか、之を見ずしては殆んど想像することは出來ないのであります。そうして學校を卒業した上で、更に國定の試驗を受て、初めて教員の免許狀を得るのであります。而かも教員は常に定員よりも非常に剩つて居りまして、夫れ等の國定試驗に合格した人たちが、職に有りつかずして居るものが、實に澤山あるのであります。

以上は歐米に於ける女子教育の現狀を極めて大ざつぱに申上げたのでありますが、之を總括して申しますなれば、米國は女子高等教育に於ても尤も進步發達し、女子の好學的精神も實に盛んで、國民全體が金と時との許す丈けは、學問をすると云ふ風でありますが、英國は最早其分に安じて居ると云ふ風でありますし、獨逸は唯今の處は寧ろ建設時代で、女子高等教育の如きは將來は知らず現今に於ては見るに足るべきものは少いが、師範學校教育は非常に發達して居るので、此點は世界に於て第一等であると思ふのであります。（談話筆記　文責記者）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

實際より見たる女子高等教育

重松茂野

女子の高等教育と云ふ問題に就いては随分多くの人によつて論ぜられてをります。或は之を必要とし或は之を不必要として、今日なほ其結着を見ない様ですが、大體に於ては之を必要とする傾向を示して居るかの様に思はれるので御座います。尤も中には其の必要を唱へつゝ、其實高等教育を受けた女子を好まない人も無いではありませぬ。其の之を必要とする人は、理論上種々の理由を以て主張し、必要とせぬ人は今日高等教育を受けた女子の實際に就て、あきたらぬ所があるかの様に思はれるので御座います。結局高等教育を非とするよりも、之を受けた女子其ものを好まないと云ふので御座います。成程高等教育を受けた現代の女性には多くの欠點を有つて居ませう。教育は女子の美質を失はしむるものであると一部人士の非難を招くが如きは、女子の大に恥づべき所であつて、女子自ら反省しなければならぬ事だらうと存じます。尤も中には教育を受けた女は骨があつて、自由にならぬから嫌だと云ふ様な、女子から見れば随分我が儘だとも思はれる批難をする方もあるかの様に伺つて居りますが、而し私は今日の様な時代も、一度は通らなければならぬものだらうと樂觀して居ります、要するに現代は過渡時代で御座います。

而し今日の社會は實際に於て、次第に高等教育をうけた女子を要求しつゝあると云つてよからうと存じます。又私共女子の立場から申しても理論上からではなく、實際上高等教育の必要を切に感ぜずには居られないので御座います。成程女大學の如きも決して其凡てをすてるべきでは御座いませんが、昔と今とは時勢が違つてをります。昔のまゝをとつて今日に適合せしめる事も出來ず、又之丈で満足せら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れるものでは御座いません。男子は日に月に限りなきまで進歩して居るのです。女子許り舊來の儘に甘じて居りましては到底男子の好伴侶となり、子女の眞實なる慈母となる事は出來なからうと存じます。

又假令高等女學校の課程を了へましても今日の實際について見ますと、之丈ではまだ人間の基礎はかたまつては居りませぬ。ノラではありませんが、人にならないで良妻となり賢母となる事は中々望み難い所で御座いませう。人によりましては、まだ出來上らない女だから夫の思ふ樣な妻にもなり、違つた家風にも化せられて行くのであつて、人間が出來て居れば、我が強くて手におへない等と仰有る方もないではありませんが、ほんとに出來た人であれば、よりよく其境遇に適應し得ると云ふ事は、私共の實見上疑ひを容れられない處なので御座います。あの方が？と云つて學校時代の友達から驚かれる樣な人でも、それ〴〵よく其境遇に適應してしとやかな行き屆いた奧樣になり、優しい圓滿な母樣になつて居る人は私共の知つて居る丈でも、二三では御座いません。もし今日高い敎育を受けた女子が、我を通して家風にあわはぬとか夫の手におへぬとか云ふのがありますならば、それは今の世によくある誤つた自覺をした所謂新しい女といふのであらうと存じます。又之等は全く高等敎育に罪がないとは申ませぬが、過渡時代には免れ難い副產物ではなからうかと存じます。まあ時代の子とも申すべきで御座いませう、高等敎育を受けないでも所謂覺めたる女といふので可愛い子供まであるのに、夫の家を出て來た理性の人も、私共の知り合ひの中に一人位は御座います。

それから又高等敎育を受けるには其の時期が長い爲め家事上の實際に就ての修練が足りないとの批難もよく耳にする所で御座います。之は誠に御尤もな事だと存じます。裁縫にいたしましても料理に致しましても、或は育兒の事でも、其他一家の整理と申す樣な事でも、理屈許りで通されるものではなく、最も實習を要するもので御座います。而し之も私の

實見によりますれば大して不都合を見出さないので御座います、着物を一枚仕立てるにしましても、物を整頓したり部屋の一寸した掃除するに致しましても、理論も何も知らず機械的に練習を主として、只事になれて居ると云ふ許りの人よりは、たとへ始めの程はふなれでも、敎育のある人の方が出來上りの結果は余程よろしい樣に見うけて居ります。それですから練習期が短く其上專らそれ許りに意を用ふる事が出來ないので、技術の妙域に達すると云ふ樣な事は到底望み難い所でせうけれど、家庭に於てよく注意し自ら常に心得させる樣に仕向けましたならば將來困る樣な事はなからうと存じます。殊に頭が出來てさへ居りますれば物の道理もわかり易く、仕事になれる事も早い樣で御座います。今日敎育ある女子がとかく家事裁縫等を好まない傾向があるなどゝ聞く事もあるのですが、特別な一二の例外はありませうが、女子は元來之等の事に從ふに適し又大抵之等に從事するを好む性質を有つて居るものだと私は思つて居ます　其の指導さへ宜しければ大に興味をもつものだと平生から認めて居ります。又た天性適應性に富んでをりますから、一朝信頼すべき人格を見出しましたならば、どんな困難をも堪へ忍んで己が有する凡てを捧げやうとするものです。敎育を受けても決して理性許りの人間になるものではないと思ひます。

要するに敎育の方法を誤りませんならば、決して女子の美質を失はしむるものではなく、却へて益々之を發揮せしめ得るものであると信じます。女子をして學問研究に興味をもち、高尙なる情操を養はしめましたならば、男子の好伴侶として子女の慈母として、眞に家庭の女王たるべき婦人を作り得る事と存じます。たとへ現代の社會には高等敎育を受けた女子を多く要せぬといたしましても　私は將來を思つて、大に女子の高等敎育を必要とするもので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

身に泌みた親の躾け（四）

過度時代の教育

梨本宮御用掛　櫻井鈎子

△母の手一つ

父は大村益次郎さんの門下生で大層大村さんの御信用を受けて居りましたので、明治元年、大村さんが伏見に塾をお開きになりました時、抜擢せられて其塾を父が引受けることになりました。大村さんはあゝ云ふお方で御座いましたから、眞に東奔西走で席の溫まる暇とては御座いませんでしたが、明治二年に京都に御歸りになりました時、父が大村さんの旅宿を訪ねてをりますところに、十人ばかり刺客が參りまして不意に取圍まれましたので、大村さんは脚部をやられまして、其場は助かりましたが、とうとう一ヶ月ばかりの後に亡くなられました。父は其場で絶命しましたそうです。之は私が四歳の時でありましたから、私は父に就ては一向記憶も御座いません。全く私は母の手一つで生長いたしましたものでありますから、親の躾けと申しましても、母の事ばかりなので御座います。父は育英の事に携はつては居りましたものゝ、根が武士で御座いましたからそれは寧ろ武人を養成する手段方法として致しまし

たもので、それが生涯の目的ではなかつたやうで御座います。何事も忠君愛國一天張りで、國の爲めと申すことの外は、何もなかつた樣に思はれます。今日でも時々父の門下生が、私共の處に參りますが、生きていらつしやれば明治政府のために、どんなに貢獻されたでしように、惜しい事をしましたと申しますが、兎に角私の藩(金澤)では尤も重ぜられた人であつたので御座います。

　こんな風でありましたから、母も全く父に化せられたと申しませうか、誠に嚴格な武士的敎育法で、今日から考へたならば極端でもありませうが、父の主義精神を呑み込んだ母には當然の事と思ひまするし、又私共として考へて見ましても、決して之を無鐵砲であつた、極端であつたとは思ひません。肉體の上からも、精神の上からも、私共の今日あるは全く母の敎育の御蔭であると、感謝してをる次第であります。

△嫌ひと云ふ事が出來ぬ

私は兄が一人、姉と妹と都合四人兄弟でありますが、兄と姉とは十歲以上も違ひまするし、父の存生中から他所に出て居りましたから、母の膝下にありて其の嚴格な敎育を受けたものは私と妹(現陸相石本男爵夫人)と二人でありました。色々幼時の事を追想いたしますれば、數限りもありませんが、其中一つ二つお話し致しませう。

　總じて昔の人はそうでありますが、母なども牛肉鳥肉など、魚は別として、この肉類は嫌いで御座いましたが、私共は夫れを嫌いだと申すことが出來ませんでした。之れは肉類に限つたことではありません。何によらず、食物のすき嫌いと申すことは絕體の禁物で御座いまして、私共が若しも之れは嫌いだと申しますと、夫れ許り一週間も二週間も食はねばなりませんでした。妹が何かの時肉がいやだと申しましたので夫ればかり食はされて閉口した事がありました。こんな風でありましたから食物などはどんなものでも喜んで頂く習慣がついたのであります、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今日でも私は香の物や又は梅干ばかりでも、御飯をすますことがありますが、これは全く母の此の嚴格な躾けの賜物であります。啻に食物ばかりではありません。衣服や身のまわりの物でも、一として何が欲しいとか、あれが着たいとか云ふとは、一切申されませんでした。私共は娘時代になるまで、絹物なぞと云ふものは着たことがありません。

衣服は寒さを凌げば足れり、食物は腹をみたせば足れりとはこの事で御座いませう。ほんとに極端で御座いまして其當時は、世の母親は慈愛と云ふものがあるやうだか、うちのお母樣には慈愛はないのかと思ふ位でありました。然し一家の主婦となりまして、いかに母の誡めの尊きかを、しみ〴〵と思はざるを得ません。

△遊び事も男の兒同樣

こんな風でありましたから、私共は遊び事の末に至るまで全然男の兒同樣でありました。これ一には其頃の氣風が萬事破壞的で、何でもかでも舊來のものを打ち壞すと云ふ主義であつからかもしれませんが、私共は琴とか茶の湯とか又は生花とか云ふとは話にも聞きいたことがない位でありました。そして男兒と一所にこそ遊びませんが妹と二人で驅つこをしたり、凧を上げたりして遊びましたものです。宅の庭はあまり廣くもないのに植木が多いので、よく凧を引かけて破つたのでしたが、幾度でも買つて貰つたことをよくおぼへて居ます。私共は幼い記憶を辿りましても姉樣人形や、まゝごとをして遊んだことはおぼえてをりません。其他木登りで御座れ、驅けつこで御座れ、皆男の眞似ばかりしたもので御座います。八歳の時藩に女學校が出來まして母は舍監として學校の内に居るやうになりましたので、夫れ以來私共はづつと學校生活で通したのでありますがお茶の水時代などには隨分蠻カラな彌次喜太旅行をして友達を驚かした事もあります。母の此の教育法は今日から見たら誠に亂暴で、例へば美術思想の如きは私には皆無でありますから、之を其まゝに用ゆ

ることはいけませんが、私共がこんなに丈夫で、今日に至りまするまで病氣と云ふ事に就て、苦き經驗を嘗めたことがないのは、全く此の母の男性的敎育の賜物であります。

△皸赤切れは當り前

母は誠に強い性質の人でありました、決して自分は座つてをつて子供に文句を云ふ樣な人でなく、何から何まで自分で先きに立つて致しまして、手本を示し、其まねを致させるのでありました。ですから冬などになりますと、あんまり水仕事など致しますので、手も足も皸と赤切れで困ることがありましたが、私共がもしも夫れを苦にしやうものなら、婦人と云ふものは皸や赤切れは當前だ、皸一つ切らさぬ婦が何になる、穀潰ぶしとは夫れを云ふのですと、早速お眼玉を戴くのでありました。之れは幼少の時から私共の腦裏に沁みこんだ事なので御座います。こんな氣質でありましたから、母は私共に向つて今日まで唯だ一言も、「身體を大事にせよ」と申した事

がありません。これは誠に珍しい事で嘘のやうな事ですが、眞實であります。婦が腹が痛いとか、風邪を引いたとか云つて床に就くなんて事があつてどうする。そんな事は皆平常の愼みが足らぬから起る事だ風を引かぬ樣に兼ねて注意し、腹を痛めぬ樣に、兼ねて控へてをれば、決して病氣などが來るものではありませんと云ふ筆法で御座います。幸と私は先申します通り、隨分頑丈に生れつきまして、其の上母の躾けがこんな風でありましたおかげですか、風邪さへ引いた事もありませんが、ヒヨツト少し加減でも惡いと申そうものなら、母は何も云はずにさつさと歸つて行くのであります。時々世間の母親はこうであるまい、責めて一度位は身體を大事になさいよと優しい言葉の一つ位はかけて下さりそうなものと思つた事もありましたが、よく考へて見れば大抵の病は自分の不攝生から來るものと存じまして、母の心中を察しては世の常の人の經驗せぬ有難さを感ずるのであります。こんな事はさても今日の世には通

用いたしますまいが、私共は母に學びて實驗踐行して子供等に、自ら先づ實例を示し、安逸を貪らぬ樣に誡めてをるのであります。

△曲つた庭樹は見るも嫌

母は私が此家に嫁りましても、ツイ三町もない所にゐて決して特別な用向がなければ訪ねてくれませんでした。娘の嫁入先きにしげ〳〵出掛けて行くのは能くないと云ふ所からでせう。然しツイ鼻の先きに居りながら、年に二三度しか訪ねてくれませんのには閉口しまして、時々は此方から出掛けて行きますことでしたが、其時は快く歡迎してくれました。

宅にまゐりますと、お前の處のこのひねくれた庭樹は、私は見るも嫌いだがの、之れを伐つて眞直な杉の木を植えたらどうだい、屋敷が廣いから生長したら國の富を增すわけではないか。第一あんなひねくれたものを子供に見せるのは、敎育上からもよくないよ、と申すので、子供が祖母樣が大藏大臣になつたら、日本國が大變な金持ちになりませうねと申しますと、夫れには母も笑はれるのでありました。

これは極端な一例でありますが、何事につけても實用一天張りで、何のためにもならぬものは徹頭徹尾排斥するのであります。此實用主義とも申しませうか、經濟にならぬことは一切せぬと云ふ思想は私の心にも深くしみこんでをりまして、其點は深く母に感謝せねばなりませんが、斯うなりますと自然に美術趣味とか音樂趣味など云ふものは缺けて參りますので、私共はそう云ふ事は全くお話にならないのであります。何事も一得一失は免れぬ處であります、母の時代は勿論、私共の時代にしました所が、過渡の時代でありましたから、曲つたなりにも、之れで通つてまりましたが、之れからの世はこう云ふ風ではいけません。お話をいたせば、先づこんな事で御座います。（談話筆記　文責記者）

愛の心深き父上

掛井岩子

誰方でもさうで御座いませうが、私は自分の親ほど尊く思はれるものは御座いません。兩親とも私によき感化を與へてくれました。私は兩親に對し一度でも恨めしかつたり、物足りないと云ふやうな感じをした事は御座いません。事毎に有難いとの感ばかりで御座いますが、殊に十七歳の時、父を失ひましてからは、愈よ父の思出が多くなり、一入尊さ懐しさがますばかりであります。

△貧乏な人を思へ

私は小學校時代を信州の篠の井と申す處で過しましたが、今日でこそ片山里の小學校でも海老茶の袴を見受けますが、其頃迄は田舎の事とて女子は誰も袴をはきませんでした。處がしばらくして全校中で唯一人、或受負師の娘が、赤い袴をはいて參りました。サア私は欲しくつて、ほしくつて仕方がありません、そこで宅に歸つて兩親にせがみました。其頃父は官につとめて居りましたから、私の袴を造へる位は何の事はありません。けれども父の申しますには「造へてやりたいのは山々だが、お前がはくと又他の人々が猶更はきたくなつて親にせがむに違ひない。貧乏な家で若し袴が造つてやれぬやうな人があつたら、親の身になつてどんなに辛い事であらう。夫れを思ふてお前も辛棒しなさいよ」と噛んでくゝめるやうに申されましたので、私も成る程と心から合點が行きまして、それから袴のことは申しませんでした。

△藝者にも同情す

其後長野の女學校に入つてからの事であります、或時父に連れられて二三人の友達と一緒に汽車で或處に藤見に行つたことがあります。一日をおもしろく遊び暮しての歸るさ、夕方の事とて、土地の藝者共が美しく化粧へて歩いて居るのを見た私共は、平常から卑すんで居る心に、搗てゝ加へて自分の土地をはなれて居るのと、友を恃む心は誰云ふとなくお

轉変の性行をあらはし、ヤイ猫！猫！と、口々に罵りながら驅け出しました。父はニコ〳〵して私共を見て居りましたが、やがて汽車に乘てから『彼等は卑しき者で、遠ざけねばならぬ者であるが、而し、中には親のため家のために、泣く〳〵あんな事をして居る者も少くない。そして心から我身分を恥じて居る人もあることであらう。夫れを思へばあんな人程可愛想なものはない。と、それとなく誨されましたので、私共は心からその不心得を恥ぢた事がありました。

△親おもひの父上

又或時の事でした、父は役所からのお歸りに、見すぼらしいお老翁の八百屋を連れて歸つて來た事がありました。其時父が母に向つて申しますには『オイ、この八百屋から野菜を買ふてやれ、いま途であつたので、フト國の祖父さん（父の父）の事を思ひ出し、もし自分の親がこんな稼業であつたらと思ふと可愛想でならなかつたから連れて來たんだ』と申されました。私は夫れを聞いて、父のやさしき心根は思はずほろつといたしましたが、母も痛く感じたと見えまして『お父樣は何と云ふお優しい方だらうね』と泌み〳〵申されました。私は父上のやうにやさしい夫を持つた母上の幸福を、嬉しく思はずには居られませんでした。

云ふて聞かすばかりが躾けてはありますまい、自分自身の行が小供に感化を與へましたなら、云はずして云ふにもました結果を表はすとでありませう。父が親を思ふ情愛の美しさはどれ程私を感せしめたかわかりません。口で何程孝行を敎へられたとて、私は斯くまで深き印象はうけなかつたと思ひます。私は親に對する孝心の父に及ばざる遠いことを、深く心に恥じてをるのであります。

記者曰く掛井姉は本誌の愛讀者でありますか、斯く美はしいお話を下さいました。皆樣も續々と御寄稿下さらんことを偏に願ひ申ます。

我が幼時

聖山生

こゝがこれ丈けあいた。仕方がないから、つたなき聖山生の「身にしみた親の教訓」を書いて埋める事にする。話の中途でぶちきれるかもしれないが、埋め草なれば是非もない。

◎我が郷里　薩摩の海上十八里、小學校の地圖などにはひよつさするさ忘れられてをる、槇の葉が浮いた樣な島がある。これが私の郷里、名づけて種子島さいふ。若しも天文十二年に葡萄牙の商船が漂着して、火繩銃を傳へなかつたならば、永久に種子島の名は、歴史にも地理にも殘らなかつたかもしれない。之あるがために辛ふじて人にも知られ、ウムあの島か、ハハアさ感心した樣な、しない樣な御挨拶を頂くのである。其島の周回は何程あるか、一寸忘れたが、何でも小學校時代に研究した記憶によるさ、近江の琵琶湖の中にシツクリさはまつて仕舞ふさ云ふ始末。お國自慢も何もあつたものでない。

◎我が名　其島に明治十四五年の交に一人の男兒が呱々の聲をあげた。何でも今度こそは男兒を男兒をさ親類中が待望して居る處にお願ひ通りに男兒が生れたので其喜びは一通ではなかた。お祖父樣が、何でも英雄豪傑の幼名をつければならぬさ主張し、父が岩見重太郎、荒木又右衛門、八幡太郎、鎭西八郎、九郎判官、熊谷次郎さ、列擧するけれども一向お氣に召さぬ。最後の加藤虎之助で、ソレダ〳〵虎之助ださ手を拍たれた。生れ落ちたばかりの赤坊は、虎之助さ云ふ、朝鮮あたりでは泣く子も靜むてふ、淸正公の幼名をいたゞいて、こゝに此私さ云ふものが出來てしまつた。

◎我が父　父は幼時平山次郎太夫さ云ふ小藩ながら、劍術の師範役を勤めた人に、弟子入りした丈けありて尙武一邊の人である。明治六年に東京に出で、海軍兵になつたのであつたが、中途職を辭して歸つた。父の同じ仲間で今日何々少將さか中將さか云つて居る人は澤山ある。父の頭には敬神勤王、忠君愛國の外、何物もない人である。手近き一例を云へば、御維新の時代、斷髮令が下つた時など、祖父樣が何さ云つてもチヨン曲を切らぬので眠つた間にプツリさ切つてやつた。之れが我島に於けるチン曲を落した初めであつたさか。（今日でも老人にして之を命さ共に保存してる者が澤山ある）又郡でこそはやくより新暦を用ひたのであるが、田舍は今日尙陰暦によりて新年を祝する、然るに維新早々から我島の中でお正月を新暦にして餅をつき新年を祝するは久しい間私の家たけてあつたそうな。私の子供時代でも我村で他に一軒も餅をつき、門松を立てないのに自分の家さ學校さ村役場だけが松を立て、自分の家だけが餅をつくのであつた。父に其わけを問ふさ、父は東京さ云ふ天皇樣の居らつしやる所では、今がお正月で、百萬人の人が皆た正月をしてるから、何も淋しいことはない、天子樣さ御一緒にすることだ云つて聞かせた。

自分の家でお正月をする時は御馳走があつて、誠にうれしいが、サア陰暦のお正月が來た時は苦しかつた。他の子供は奇麗に着飾つてうまい物を食べて遊んでゐる。其時に限り、父は決してよい着物をきせぬ。ワザと一番汚い着物をきせる。着物はどうでもよいが、困つたものは餅であつた。母が内證で少し搗うとすれば、父は「馬鹿ッ」と叱る。天子様のお正月に正月をせずに、今するのは不忠者だ、舊正月に餅を食ふと矢張り天子様に背くから不忠者だとの事で、餅はほしかつたけれども、父から不忠ものよばはりをされるのがコワさに、ほしい餅を辛抱した事を今に忘れぬ。お盆でもそうであつた、田舍では佛教の信者でなくとも盛に盆祭をやつて、舊の盆をやるのであるが、此時も決して御馳走をこしらへて食つて遊ぶと云ふことをしない。矢張り汚い着物を着せられて、牧場を見回りに連れて行かれた、私の家は牧場をやつてゐる。其かわり春秋の皇靈祭の日には神主さんをよんで、先祖祭をなし親類をよんで御馳走をするのであつた。こう云ふ風に天皇中心義で、私の家には物心のつく頃から忠君愛國と云ふことゝ、敬神と云ふことゝが、釘を打ち込むやうに、否應なしにたき込まれたのである。

◉我が宗教　父は右に申したやうな忠君愛國主義で、此忠君愛國は敬神と云ふことに其基ひを發すると信じて居つたから、神道は其宗教にして、七代の天神と五代の地神、即ち天之御中主之神以下、天照皇大神等は其信仰の對照であつた。のみならず歷代の天皇其他忠臣義士等、所謂八百萬の神を崇拜した。

私は何も知らない中から、拜むべきものと敎へられ、毎朝毎夕父と共に祭壇に額づき、祭詞を捧げ、柏手を打ち、勤行をした。そうして祭壇には毎朝新鮮なる野菜菓物草花を供奉し、新しき水を供へ同時に其一隅に祭れる祖先の靈位にも同じく奉仕した。之れは六七歲の頃からは全然私の任務で、私は學校の歸りも、美しき野花や若木などがあれば、取つて來ればならなかつた。此事は私の小學校時代を一貫して實行した處であつたが、其長い間一朝も缺かさなかつた。けれども私はこれに就て少しの苦痛を感じなかつたことを記憶する。のみならず私は確に之によりて自分の德性を築いたやうに思ふ。正しい事でなければ決してしてはならぬ。人は見て居なくても神様はちやんと見て入らつしやると云ふ思想は、確かに私の心には夙くから根據を据ゑたことをも色々な記憶から證明するとが出來る。

今から思へば何もかも今日に達する道程であつた。私は父の病氣の時など獨り暗がりに祭壇の前に額づいて、父の平癒を祈り、現に東京に來てからも、三十五年の春に、父が危篤の電報に接して大雪の夜の三時頃、湯島天神に行つて、曉方近くまで祈つた事がある。今から思へば馬鹿らしいやうだが、それでも眞の神樣は、この見當違ひの祈を聽いて下さつたやうな心地がして仕方がない。私は私の信仰の徑路を思ふ時に、父の神信心を忘れることは出來ません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文苑

夢うつゝ

紫嵐

私は大罪人として大廣間に引き出された、大廣間は學校の講堂の樣で、丁度クリスマスの時の樣に一パイに人に滿されてゐる。ステージの上には黒い法服を着た多數の人が白髪の赤いガオンの樣な物を着て居る人を中心に、ズラリと嚴めしく控へ込んで居る。而してユダヤ人の樣に、白い布を肩からうけて下げ髪で立つてゐる私を睨みすゐて居る。

私は自分が大罪人だといふ事を誰かに聞いた樣な氣持で衆人の視線を一身に集めて至極氣輕に立つてゐる。そして四方を見廻して、凡てがシャイロックの判かれたヴェニスの法廷に似て居ると思つた。呑氣にそこいらを見廻してゐる中、意外にもステージの上の黒い服の人の中に父樣か手に書類を持つて首を垂れたまゝ考へ込んで居らるのを見て思はず「父樣！」と叫ばうとしたが聲が出なかつた。夫ばかりではない、私は振り返つて集つて居る人々を見まわした、時皆私の知つてゐる顏なのに驚かされた、凡ての人がそれ〳〵强い表情を以つて熱視してゐる。

やがて赤い服の人が重々しい聲で、私の名を呼んだ、其名は私の新しい名であつた、夫から嚴肅に私の罪の取調が始つた。私は廣い野の中に忘られて居る池の樣な靜かな心地で、耳を澄してゐると、よくも解らぬけれども、兎も角も私が國の法律を犯したといふのらしい。何が國の法律で如何して其を破つたのか如何にしてもわからなかつた。唯いろ〳〵の人の聲の間々に父樣が聲を震はせながら、私の無罪を云ひ張つてくれるのが、自分には堪えられなく心苦しかつた。

私は終に動かすべからざる證據とやらの爲に有罪に決定された「流罪！」と赤い服の人が立つて叫んだ私は其聲に驚いて見上げると、父樣は机の上に打伏

になつて悶えて居られる。堂は多くの人の叫びと忍泣の聲に滿ちた。私は走つて行つて父樣に私の罪を說明して貰うと思つたけれども、私の足は一歩も動かなかつた。私は白い布を面にあてゝ泣いた。

　私は何も知らない、知つてゐる事は私は罪を犯さないといふ事だけである證據とやらが合うか合はないか知らないけれども、其が合つても合はなくてもかまはぬ程私の心には覺がない、私は人に判かるべき罪を一つも持てゐない。まして自分の愛さぬ人に見知らぬ人に判かるべき事は私の身に一つもない。國の法律といふものを破つたか破らぬか、それは私は知らない。私の心が此樣に平靜である以上、犯したとしても、私には悲しい事でなく、犯さぬとしても別に嬉しい事でもない。唯私自身、私の心が覺えのない罪といふものゝ爲に、しかも私の心と全く關係のない世の人が定めた罪と名のつくものゝためにかくまでに悲しみ苦しむかと思ふと、今迄の生涯の全部が空であつた樣に思はれて、私は血も流れ出でよとばかり泣き悶えた。

　此時私はフト私の側近く來て狂はんばかりに泣き崩れて居る家族と呼ばれる人々を見た、先祖代々名譽多かつた家名といふものが嫁なる者の爲に、こゝに汚され傷けられた事を、死んでも申譯が立たぬと繰り返し／＼泣き聲立てゝ叫んでゐる。

　私の血の樣な涙は一時に冷い雫となつて、心の底の方に凝結してしまつた。忘れて居た青黑い記憶をムザ／＼と思ひ出した。私は見惡い憎と嘲が洪水の堤を破つて流れ行た樣な勢で私の胸にみなぎつた。私は泣いてゐる其等の人を見て心よく笑つた。私は曾て其等の人々を愛さうと試みた。不自然な世間の道德を不自然と思はずに見も知らぬ人を理解なしに我心の關係者としようとした。其一人に對する全心の愛はかゝる大事業をも爲し得るものと、愚にも思つたのである。私は何も知らずに新しく知つた愛の一部を心よく捧げた。それから後の事は私自身でさへ思ひ出すに堪えられない。唯愛に迷つた己の行爲

を一人耻しく思つたのである。然し己にかへつた時はもう元の春の海の樣な平和は我心になかつた。其から後に私は常に幸福になつた、然し我影の全部をあざやかに寫し出す平和の光はもうなかつた。其記念としてのこつた青黒い影を、私は一人ジーッとみつめる折が多くなつた、然し私は其度毎に知らぬ間にジリ〳〵と強くなつて來てゐた。私は今女だけの感じ得る前後を思慮せぬ強さに滿されて、白い布を爪先に蹴つて汀につながれて居る眞黑な舟に一飛に乘らうとした時、私の浮かした船體は強い手に支へられ、私の耳には劍の樣な言葉がさゝやかれた。

あゝ私は祈る事を忘れてゐた、祈をもつて會ひ、祈をもつて知つた人に祈なしに別れようとした。祈の心なしに人を愛し、人を憎んだ。此頃の心の樣が電光の樣にあらはれる、あゝ我と我心を僞る其心の底に、ひそかにふるへてゐた恐怖……豫期してゐた最後……に自分はこうして遇うたのである。憐れな卑怯な私は一人で、獨力でその醜惡い生活からのがれる事が出來ないので、此の樣な出來事が與へられたのである。あゝ私は余りに人を愛し過ぎてゐた、余りに〳〵人に愛せられる事をよろこんでゐた。其可愛がられる嬉さの爲に醜惡い自分を誤魔化さうとしてゐた。日毎夜毎に貧しくなりゆく内部の己が生活をあさましと思ひつゝ、猶〳〵そのまゝに續けて行こうと努めて居た。

私は今こうして眞の生活に歸つて行くのではないか、悲しむ事はない。吾等再び遇ふ時こそ我に背かざる。我心に僞らざる全き心と心とで悔なしに恨なしに愛し愛される事が出來るのだ。

あゝ私は行こう〳〵、遠い〳〵人の居ない島へ！

私は黑い舟の中へ倒れた。

◦　◦　◦　◦

私は覺めた。下の時計が靜さの深さを告る樣に二つなつた。いろ〳〵の事を思ひつめて十二時を聞いたと思つたのに……眠つたのであらうか。あゝ夜の暗さが夜の沈默さが餘りに殘酷の樣な氣がする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支那に於ける家庭の事情

譚毅公談

本郷教會の婦人會では毎年春秋に學生諸君を招いで愉快に興味ある集會をなし、家庭にはなれたる彼等を樂ましむることになつて居りますが、今回清國留學生を招いて他郷に來りて、家庭的の溫味にうゑたる彼等を慰むるため、去月十六日午後、海老名牧師の宅に集會を開きました。其集會は誠に興味あるもので、獨り彼等を樂しましめたのみならず、私共自身にも非常に有益に感じました。お出でになつた方は主もに早稻田の中國青年會に居ります方でありまして、元より皆基督信者でありました。其お名前を擧ぐれば、黃慶瀾、王文炳、向瑞節、張國選、嚴智開、李性晟、羅文光、陳敏學、馬寛容、況天爵、傳銅、譚公毅の諸氏で、此の中陳敏學氏は久しく米國に留學し、業を卒へて歸朝せらるゝ途次でありました。陳氏は組合教會の信者で、父君は有力な牧師だそうで、同氏も將來支那教化のために盡さるゝのだそうであります。

譚氏は四川省の人で、東京に居をトし、同郷の學生を監督して居らるゝのだそうですが、巧なる日本語を以て　支那に於ける家庭の事情を左の如く語られました。

支那の家族制は日本と違ひまして、御國では長男が其家に屬する財産の大部分を相續することになつてをりますが、支那では兄弟が五人あつても、六人

あつても、皆平等に財産を分配するのであります、でありますから、大抵の家では別に財産を分けずに大勢の者が一緒に居ります。夫れを分けると貧しいものは益々貧しくなり、富めるものも段々貧乏になるからであります。夫れで支那では今日でも百人位の家族は到る處にありまして、中には一家族が三百人もあつて、一の村落をなして居るものも少くありません。支那は家族制度の極端に發達した國ではないかと思います。又娘を嫁入りさせる時は澤山の金や支度をさせねばなりません。夫れは習慣となつたのでせうが、一つには競爭の結果で、一人の家で、立派な支度をさせると他の家ではまた夫れにまけぬ支度をさせるので、身分不相應な支度をさせるため貧乏になる人、澤山あります。中には娘を三人も四人も持つて居る人は娘の、嫁入のために破産する人もある位であります。**ですから支那では娘の生れる事は大變嫌います。**男子が澤山生れると喜びます、嫁を貰つて金持になるからであります。而して支那では同姓は娶りません、これも一つはこの關係から來ております。

支那の婦人は纏足をすることは皆樣の御承知のことでありますが、之れは上流の、又は財産のある家でするのでありまして、彼等は足が小いのを美人としてありますから、一人が小くすれば、外の人はそれよりも小さくする、又他の人は更に小さくすると云ふ譯で、競爭的に益々小さくなりまして、女中が兩方から抱へねば、一人では一寸も歩けない位の婦が澤山あります。併し貧乏な婦は夫れでは飯が食へませんから、そんな事はありません。皆自然に發達した足を持つてをるのであります。處が面白い事には、支那も段々文明が進んで參りまして、今日新しい教育をうけたものは、足の小さい自分の室さへも自由に歩けない樣な婦人は嫌ひますから、足の大き**い人が美人と云ふ事になりまして、美人の標準が段**段變りますので、貧乏な人が好かるゝ事になりました。足の小さい婦人大變困ります。それで段々足を

小さくしない風俗に變りつゝあります。これは誠によい事であります。云々

近頃の少女雜誌

△讀ませて良いか惡いか

聖山生

一或新聞で「少女雜誌の弊害」と題して少女雜誌の記者が販路擴張のため、地方などに出張して、少女會だとか、お伽會だとか云ふものを開き、うぶな田舍乙女の虛榮心を挑發すると云つた樣な記事を見てから、一度少年少女の雜誌を集めて調べて見たいと思つて居つたので、取敢へず三月號の少女雜誌を取寄せて見る事にしたのである。

◎少女（女子文壇社發行）

表紙の意匠は無邪氣でよい口繪も寫眞も先づ惡くない。靡頭に「いたづら小僧」で多少名をなした、佐々木邦氏の「造幣局長の娘」及び「雛祭」がある、可もなく不可もない。次は「少女の力」と云ふ太田三郎と云ふ人の歷史物、筋は別に惡いでもなからうが「抑へがたい處女期の憂鬱」だとか、「世の中の嬉しい悲しいをやは肌にまともに當てさせて見たいと云つた樣な、若々しい放縱な空想」だとか「唯さへゆらぐ靑春の血潮」とか云ふ樣な文字が處々に散見する。次に歌がある「歸らぬ人の戀しさに、岡に上りて名を呼べば」とか「娘心のはづかしや」とか書いてある。こう云ふ事を十歲や、十三四の少女がわかるだらうか。但しは十七八歲の娘によませる積りだらうか。其他少女小說「海賊の寶」と云ふ空想的な冒險小說や「色眼鏡」、「湖上の月」其他いろ〳〵の者がある。

次に少女文壇の大擴張と云ふ一號活字の大廣告があつて、少女小說、告白文、手紙文、詩、短歌。俳句等を懸賞で募集してなる。其廣告文なんかはきざで〳〵見るにたへない。次には全國各地の少女の色々な文章、詩、和歌などが六號で二十四五頁あつて、最後に四十四年度少女文壇各府縣投書成績と云ふ精細な統計表などがある。此雜誌はどう見ても少女雜誌でなく、中女雜誌だ。而してこれで見ると、此雜誌は有益でなく寧ろ有害でないかと思はるゝ節が多い。

◎少女の友（實業之日本社發行）

取寄せて見れば臨時增刊呼子鳥と云ふので內容も豐富である。表紙の昔の宮女は餘りにコテ〳〵と塗り立てゝなる。夢二の少女は病人のやうで素人には不快の感を與へる。卷頭には跡見花蹊、嘉悅孝子、山脇房子、下田歌子の諸老婆が小供時代の事を語つてなる。夫れから「歸る君子」は少女が肋膜で東京から痛々しい心を抱いて郷里に歸る悲しみを書いたもので、「夕化粧」はお嬢樣の髮を結びながら、自分の若い時の非運を話して、多感な乙女を泣かせたくだらない事、次に「通り雨」には花下に喜び遊ぶ子供を見て、十六七の少女が「あの二人は幸福だわれ、散つた花はもう枝に歸らないことを知らないわ十六の春が去つて仕舞へばもう二度來ないと云ふことを知らないわ」とやうなことを云つてなる。

そうして其次には二號活字で大々的に「私が本誌の愛讀者となつた動機、及び私の投書が始めて掲載された時の心持」と云ふ題で、數名の少女の文章がのつてなる。何れも投書の載つた嬉しさや、懸賞に當つた時の胸中を、ませた筆で少女の心をそゝるやうかいて居るが、之れで愛讀と云ふことと投書とは相伴ふてなることを明かに發見

する。こんな事をやつて無垢な少女の虚榮心は挑發するに至つてはぞつとせざるを得ない。次には多情多感な少女の寄宿生活を描ける「哀音」、眞の子でない子に、夫れを打明けやうか、どうしやうかと惱める「迷へる女」、記者十二名の不謹愼な寄せ書き、其次が例の文章詩歌の投書で二十余頁に亘る。或小學校では「少女の友」だけ取れと云つて、撰定してをるそうだが、果して當を得て居るか、之れでは少々疑ひなきを得ない。

◎少女界（大洋社發行）

表紙も口繪も寫眞も頗るまづいが、内容はそうでないやうだ。まづ永代美知代の「五重のお妻」は罪もないもの、「心の花」は美はしい乙女心を描いたものである。次に「たんぽゝと菫」「電信の話」「貨幣の話」「花ごよみ」「割烹教師」等は何れも科學的の知識を與ふる好讀み物で、「夢の小島」「相思鳥」は毒にも藥にもならぬものである。然し和歌、文章、俳句、は扱てなき、習字まで懸賞になつてをつて、例により盛なものであるが、考へ物、判じ物、一口ばなしまであるので、全體の調子が子供じみてをる。凡てが少女雜誌さしてふさはしい内容だと思つた。

◎少女書報（東京社發行）

表紙は全く感服しない。口繪は畫報だけに、十數頁の寫眞は有益で興味が多い。記事も中々眞面目なのはうれしい、卷頭には高島平三郎氏の「うるはしい心」あり、次は三宅花圃女史の「雪の梅」はあはれにも美しい母子巡禮のはなし、「お雛様の御馳走」は女子大學教授手塚姉の興味ある料理法の講話小説である。次にお伽噺「變幻坊」は唯だ面白い一方の話で、遠山稻子の「五人の强盜を防ぎし少女」と旌表されたる孝女きみ子」は問題の示す如く、有益にして興味を伴ふものである。尾島菊子の小説「養女」松山さよ子の「二夜」は毒にも藥にもならぬもの「ひな節句」は無邪氣でおもしろく「雛祭と桃の話」「面白い手紙遊戲」「廢物利用、紙の始末」は有益にして「登校前」はおもしろい。其外「いろ〳〵の癖のよしあし」「學窓日記」など中々おもしろく思はる。大體に於て非難すべきところがない。本文の中にはちよい〳〵六ケしい所が見ゆぬでもないが無邪氣な記事があり、判じものや考へ物や繪さがしなどもあるので有益で中々興味がある、以上の中では尤もすぐれて居るやうに思ふ。

◎お伽倶樂部（お伽倶樂部社）

以上の外に博文館の少女世界がある、これは生憎手に入らず、遂に茲に紹介する事が出來なかつた。尚一つ久留島武彦の經營するお伽倶樂部がある。之れは少年と少女とを平等に見た、云はゞ小供雜誌で、少年向きの記事もあれば、少女向きもある。從てそこに其特長もある。内容の活氣に滿ち、快活にして運動的で、自由自在にとびまわつて遊んでをる子供を見るやうな思ひがする。少女小説などもあるが、近頃の文學の影響をうけた一種憂鬱な分子など薬にしたくもないのは意を强うするそうして。第一全く文章詩歌投書欄を設けざることゝ、第二挿畫に不健全なる病的な木版畫を入れず、興味ある寫眞版を入れてをるのには氣に入つた。

以上は極く概評に過ぎない、中には目の屆かなかつた處もあらう又三月號一つにて彼と是と比較するのは無理かしれんが、然し大體の傾向を看取することが出來やうと思ふ。余が尤も著しく感じた事は、文章欄を設けて少女の虚榮心名譽心を挑發することゝ、今一つは不健全な思想の傳染、恐れあることである。父兄たるものは決して油斷してはならぬ。成るべくは、毎號點檢する必要があらうと思ふ。夫れにつけても余は棚橋源太郎氏の說の如く早く公けの事業として少年讀物審査會の起らんことを望まざるを得ない。

家庭

改良すべき事（一）

（來客及び訪問に就て）

「改良すべき事」と云ふ大ざつぱな題を設けましたが、過渡時代に屬する我國の家庭では改良すべきことは一二にして止まらないと思ひます。たとへば交際上の事もありませう、衣服のこともありませり、又臺所のこともありませう。今號には其中來客及び訪問に就て二三家庭の實際やつてゐらしやる事を承はり參考に供することゝいたしました。何卒皆樣も御心づきの點を御遠慮なく御發表下さいまし（記者）

和洋折衷主義

コーツ博士夫人

よく皆樣が洋服姿に足駄つぱきと申して笑ひますけれども、あれは實に日本の道路には適切な仕方で私は誠に賢い仕方であると存じます。私共西洋人も出來る事なら足駄をはいて歩きたいと思ふ位で、日本の雨天と來たら、實に〳〵閉口で御座います。これは一例でありますが、何事でもすべてこう云ふもので御座います。一事一物皆な各々其國の事情に應じて久しい間の習慣と歴史を有するものでありますから、一概に打壞すことは出來ません。何れも雙方の便利と事情とを考へて折衷せねばなりません。

△訪問と來客

在宅日と云ふものは西洋では大抵定まつて居りまして、其日は朝から支度をして訪問客に接するのでありますが、然し他の日だと云つて家に居りながら

お目にかゝらぬと云ふのではありませぬ。一體面會日と云ふものを定めるには、西洋では近所の知人と申し合せて、入らつしやる方に便利なやうに成るべく一緒にすることになつてをります。なせなれば遠い所から折角入らつしやつたのに、ツイ近所の人が甲は火曜日が面會日で乙は水曜日が在宅日と云ふ風では、誠にお氣の毒であるからで御座います。故に在宅日を定めるのは自分の都合と先方のためとを斟酌して定ると云ふ風で御座います。ですから先にも申した通り、よし面會日でなくとも、ツイ近所まで參りましたから、お訪ねいたしましたと云ふ方には宅にさへ居れば勿論お目にかゝるのであります。但し面會日にはお茶も用意いたしお菓子も整へてをりますが、他の日は夫があるともあれば、ないこれもありますから、面會日以外のお客に對してはお茶やお菓子を出さぬことになつて居ますので、お客の方でも今日は面會日でないからと思つて、之れを別にケチだとも何とも思ひません。當然のことゝして決て長居も致しませず、サッサと歸るのであります。

面會日を定めると云ふことは雙方の時間の經濟から申しましても、良い事でありますが、私は日本の家庭には夫れよりも、もつと改良すべきことがあると思ひます。第一お客のある毎に朝でも晝でも晩でも、お茶や菓子を出すことは如何かと存じます。昔は奧樣と云ふと何もせずにキチンと座つてをるものであつたと見えて、曾て私の所に居りました女中が私共から暇をとつて或獨逸人の所に傭はれました時今度の宅は本當の奧樣ですと申しますので、そんなら私は本當の奧樣ではないかね、と笑つた事がありましたが、如何に本當の奧樣も此の節の樣に工場や交換手や其他女子に相應の仕業が出來て、女中が拂底する時節には、勢ひ之まで二人の女中を使つてをつた家は一人、一人の家はなしで行かねばなりません。さあ、そうなると迚も今日の樣にお客毎にお煙草を出す、お茶を出す、お菓子を出すと云ふことは出來ませんし、假令無理にも出來たにした處が

之れは改良しなければならないかと思ひます。然らばどう云ふ風に改良すべきかと云ふに、全然之れをやめると云ふことも出來ますまいから、之れは米國風でなく、英國風がよいかと思ひます。米國では日木のやうに火鉢と云ふ重寶なものがありませんから食事の時間には火種がたへる位で、全くお茶もお菓子もないのでありますが、それは在來の習慣から見て餘り殺風景でせうからいけますまい。英國風とは晝飯と夕食との間、卽ち午後の三時頃に所謂「お茶の時」と云つて家内中でコーヒーを飲みお菓子を食べるのであります。日本は食事時も恰度英國に似てをりますから、午後三時頃をお茶の時として、此時分に來たお客樣にはお茶を出すが、他の時は出さぬことにするのです。どうも日本の樣に朝でも晩でも間食をすることは衞生上から見ても、決してよいことでありません。其點から云ふも今日の日本の樣に、お客さへあればお茶菓子を出すことはいけないと思ひます。

△御馳走と接待

それから御馳走のことで御座いますが、西洋では極く〳〵懇意の間柄でなければ、特に招待された時の外は、他所に上つて御飯によばれる事はありません。訪問をいたします時もなるべく食事の時間に外れるやうにいたし、食事時間前とか或は食事時間中に訪ねるとは、最も失禮なことゝしてをります。

又御馳走をいたすにした處が、決して特別にこしらへて出すやうなことはいたしません。大抵平常と同じでありまして家人と一緒に頂くのであります。日本ではお客をいたす場合は勿論、一寸した事にも料理屋に注文をいたし、色々なものを澤山並べると云ふ風があるやうで御座いますが、西洋では御客をしてホテルから物をとつたり、又幾品も幾品もテコテコと並べますことは客に對して失禮になつてをりますのみならず夫れをホテル風だなどと申して、卑しむので御座います。餘り粗末なお料理を出すことは禮ではありませんが、しかし日本の方は今少し萬

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事を簡單になさつて、心から待遇のが客の方でも心地よく感じはしまいかと思ます。そうしてそれがやがて心おきなく往來をする端緒ともなり從て今少し社交的にもなる基でないかと存じます。お泊り客に對しても之と同樣で、西洋では別に室を與へ自由を與へる外は、すべて内の人同樣にいたし、特別に待遇することはいたしません。其方が客の方でも居心地がよいのであります。夫れから之は些細なことでありますが、日本の方が五分間ばかりの用事に、三十分間も一時間も四方山の話をして、夫れから御用事をお話しになるのは是非改良したいものであります。私共は決して日本の方を嫌いではありませんが忙しい時などは之れに出會せるのがこわさに、みすみすお斷りすることがあります、どうかこれ丈け早く改良したいものであります。

△おつかひもの丶事

お贈物で御座いますか、左樣、これも私共大變困つた事が度々あります。二三年前の事であります。

ミスターコーツが大變重患に罹りまして、一時はとても望みがないと醫者も申したのでありましが、幸にして恢復いたしましたので、友人や教會の方々をお招待申して感謝會を開いたので御座います。そう致しますと、何方も／＼皆色々な御進物を持つて來て下さいまして、私ほんとに困つて仕舞ひましたのですよ。病氣の時、お見舞ひ下さつたり、お手紙を下さたり、お品物を下さつたりしたお禮に、此方が招くので御座いませう。其上貴重な時間を態々割いて、電車賃を拂つて、奇麗に着替ていらつしやるのでしよう。手ぶらで入らしやるさへ勿體ない譯で御座いますのに、其上にも手土産をお持ちになるとは眞個に有難迷惑で、私は困つてしまつたので御座います。之れは日本の方の習慣で御座いませうが、西洋では見られないことであります。西洋でも御病氣の見舞ひとか、又はお子さんが産れるとか、お結婚なさるとか、或はお葬式とか云ふ場合にはお祝ひ物や贈り物を致さないではありません。之れは日本同

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樣、それ〴〵適當の品を見計つてあげるにはあけますが、受ける方では有難く頂戴するばかりで、決して日本の樣お返しをするやうな事はありせん。其時は貰ひつ放しでありますが、他時先方に同じ樣な事件がおこつた場合には、又此方から送物をいたすのであります。之れは全く自由になつてをりますので無論しなくつてもいゝのですが、大抵は此方の娘の嫁入りにお祝を貰つたとすれば、今度は幾年たつての後か知りませんが、先方の息子にお嫁さんが出來た時とか、或は娘さんがお嫁に行く時に、此方から送るのであります。出產、病氣、誕生祝なども同樣で御座います。

平素の訪問などにも菓子を持つて行くとか、卵子を持て行くなど申すことは決してありません。日本の方が、何かお持にならねば行かれない樣な風にお考へになるのはいけません。やがてこれが出不性になる基ではないかと存じます。何事に限らすこう云ふやうな、經濟上からも社交上からも不利益なことは皆樣方が卒先して御改良になつたら、大變よろしいかと思ひます。（談話筆記　文責記者）

一風違つた私の主義

某夫人

△訪問又は來客に就て

私共では別に在宅日を定めて居る譯でもありませんし、又外出日も極めて不規則で御座いますから、別にお話し致たす程のことも御座いません。しかし私共の家庭の一週間の日課を申しますならば、ざつと斯うで御座います。先づ一週の中日曜日は休みで寄宿に居りまする子供も歸りますので、子供等が一番樂しみにしてをる日でありますから、私共夫婦とも終日宅に居りまして、子供等に滿足を與へる方針を取つてをります。夫れで日曜日は自然在宅日と云ふわけになつて居りますので、御訪ねになる方なども此日をあてこんでお出でになります。私共ではお客に御飯をさしあげるにした所が、決して特別にお

支度をいたしません。誰方にも家人同様のものを差上げることに定めて居ります。そして大勢同じ食卓に就て一所にいただくので御座ります。元來私共夫婦は二食主義で御座いまして、外に長男と女中と都合四人が二食で御座いますが、日曜日には子供にも緩り寢ませますので、日曜にかぎり家中皆二食で晝食が十一時過になるので御座います。ですからよくお來訪の方にお晝飯を差しあげることになるのでありますが、何時でも出來合でさしあげることにいたして居ります。

月曜日は日曜に何もかもさし置いて遊んだり、お客に接したりしますので、自然用事がたまつて居りますし、又色々と一週間の準備もありますから、此日も終日宅でありますが、其かわり火曜日は暇でありますからまあ此日を大抵外出日としてをります。

其外の日は定まつた用がありますので外出しますのですが、主人が宅に居ります日は夫れも捨てをかねばならぬことがあります。

△お泊り客に就て

お泊りのお客に對しましても、私の宅では一切特別な待遇をせぬことに定めてをります。例へば他所から入らつしやいました遠來のお客をお宿するにした處が、決して特に肝煎て御馳走することを致しませず、平常と同様にして矢張家人と一所にいたし、一向お構ひ申しません。中には之れをお嫌ひになりまして、あれでは餘りだ、お客に對する禮でないと申す人もあるかもしれませんが、然し私共が他所様に上りまして、泊めて頂いた場合に、餘り御馳走をして下さつたり、色々と構つて下さると、誠に氣におけてちよつとも心が落ちつきませんが、其かわり別に氣にかけて下さるでもなく、家人同様に、お茶漬けでも何でも食べさせて、心置きなくして下さると、一日の積りで行つた所は、ツイ三日も泊ると云**ふことになりますので、どんな珍しいお客にも決し**て其ため特別に御馳走をいたさないことにして居ります。之れが私の家の主義でありまして進歩か退歩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かも存じませんが、兎に角一風變つて居るかと思ひます。

△手土産と贈物

盆と歳暮には子供等の先生や、媒介の處など是非ともお進物をいたさねばならぬ處がありますが、其他の時は一切進物などは致しません。又人をお訪ねいたします時にも手土産なども一切いたしません。一體日本人は誠に虚禮が多く御座いまして、何ぞといふと、お菓子折の一つでも持つて行かねばならぬことの様に思ふのでありますが、これは單に不經濟であるばかりでなく、實際甚だよくないことです。さう云ふことが度重なりますので、ツイ虚禮にもなり、心にもない事をいたすことにもなるのであります。ですから私共では贈り物をいたす場合には充分に意を用ひまして、先方のお爲になりそうなもの、最も欲しくつて居らつしやりそうな物をと云つた様に、凡て先方本位でいたしますので、一つの玩具を買ふにいたしました處が、隨分苦心を致しますので御座います。菓子折などを使ひますことは決してありません。

それから頂いた品物の事で御座いますが、これも私共では他所から頂いた進物ものを、更に他に差上げることは固く禁じて居ます。ですから自分が他所様へ何か上げたいと思つて居る矢先に、恰好の品物を頂きました所が、それがお菓子であらうが、卵子であらうが、乃至は品物であらうが、夫れは其儘にいたしますので御座います。これは甚だ不經濟のやうでありますが、實は夫れにもました利益があると信じます。即ち第一には人の厚意を無にせぬこと第二には先方に對して禮をかゝぬ事、第三には子供の教育上であります。人が下さるのはそれが食物ならば賞味してくれよと云ふわけ、又品物ならば使つてくれよと云ふのであつて、決して人にあげてくれと云ふのでないことは申迄もありません。これを他にあげるのは、其人の厚意を無にするのでありませう。又お正月の鴨が腐るまで回つて歩いたと云ふ話

がありますが、あれは決して鴨にかぎつた事ではありません。鑵詰でもあれば知らぬこと、大抵の物は痛みやすいものであります。若しもそんな物を他所へあげる事にでもなれば此上の失禮はありません。先頃も或所から余り立派な卵子折を頂きましたから早速開いてみましたら、百幾個と云ふ卵が十三四個しか、役に立ちませんでした。又よしそれが確かに何ともないにした處が、包み紙をかへて如何にも自分が調へたらしく裝ひますのは誠にさもしい心で、子供などに見せても決してよいことではありません。寧ろ一家團欒の間に之を開いて、之れは誰方から頂いたのだと云つてたべますのが教育上どんなによいか知れません。斯樣な理由から私は斷じて到來物を更に他に使ふことはいたしません。尤も鑵詰など澤山貰いました時分には、これは、斯樣〳〵な次第ですからお福分けいたしますと云つて、差しあげることはないでもありませんが、其他のものは一切家で使ひますので御座います。（談話筆記　文責記者）

○

或る日の事でした。私が或お家庭を訪問致しますと、奥樣が如何にも嬉しそうに「おかげ樣で子供がこの頃は快活になりました。實はあの子ばかりは、何うしたものか、默まりで總べてが控へ目勝ちで居りますのが不思議で取調べて見ますと、驚きました。それと申しますのは、あの子の子守りがよくないので自分で何か悪い事をしましては、決して告げるんでないよ、云ふたら、何うするさか、彼うするさか、始終云はれたのが原因で、遂ひ物事を秘す樣になつたのだと分りましたから、急いでその子守りを返しまして御座います」との御話しでした。（ふじ子）

○

私が或朝仕事をして居りますと五六人の御子樣方が集つて「あのねうちのお父樣は今朝お母樣をお叱りになつてよ、そしてお母樣は泣いていらしやいましたよ」と申しますと、他の一人は「うちのお母樣はいやよ」「どうして」「だつてお母樣がお父樣を叱つてよ」「なぜ」「あのねお父樣が昨晩おそくお歸りになつて」と云ふ。無邪氣なお子樣方の會話でございましたが、私は冷汗をかきました。（ふじ子）

隨感

女子の高等教育と家事の見習

此程左の如き手紙が親しき友の許から参りました

毎々新女界御贈り下され、難有拝見仕候。扨、私方長女の教育につき、御教示を蒙り度左に大略相述べ申候間御一覧の上御意見御聞せ被下度奉願候。同人は只今、高等女學校三年生に御座候處。幸に身體非常に壯健にて、學科もまづ人並に進み候樣子に御座候間相成可は高女校の教育に止めず後來母として子女の教育を引受け、又萬一不幸に遭遇する折には、自營の助けを致候位の程度にて今一段の教育を授け度存じ候得、御承知の如く、私共田舎にのみ住居致居候間、東京の樣子も相分り不申、且今日の女子の專門學校には、隨分非教育的にて生徒に同情なき向も有之樣承知致居候。かくては、折角學藝には發達致候ても精神上、品性上に缺點を生ずることは無之やとひそかに心配致居候………尚ほ本人はしきりに英語に興味を有し居り、後來志を得ば一寸にても、海外をのぞき度しと熱望致居候得ども、出來れば結構と存居候。兎に角男子なれば大學校迄やらせ度迄に候間、嫁入り仕度の代に、財布の底を叩いて教育致して見度存居候。來學年より前途の方針を定めて準備致させ度候に付き右御迷惑願出候次第に御座候。

此お手紙を讀み終つて、誠に愉快を感じました。此姉妹が如何に其子女の教育に御熱心で且意を用ひて居られるか、流石に教育ある母君のゆかしき御心がけが見られて嬉しく覺へました。世には我娘のふりの袂の長さが上にも長からむことを競ひ其お化粧に憂身をやつして居られる母君達も多かる中に、只管玉の本質を研きて、其光のそはざらんことを希ひて餘念なきは、實に難有き心がけであると思ひます。

女子の高等教育はすでに定論なるが如くにして定まつてをりませぬ。さう學問ばかりして居ては、家がもてぬ。家内中ボロをさげて、不味いものを喰べさせられてはこまるから、よい加減に學問を切上げて家持ちのお稽古をしてもらはなければならぬ、といふが八九分の樣であります。無論私共如何に娘の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

學問に熱中して居るものでも家持も出來ない樣な敎育は實に困ります。けれども其小お言を何もかも學校の敎育が惡いかの樣に、ヤレ裁縫が出來ない、お料理が下手だと學校を責めるのはチト無理だと思ひます。さう何もかも學校で出來やう筈がないのではありませぬか。裁縫やお料理は學校にお願ひする迄もない、當然母親の責任で、重に家庭敎育に屬するものではありますまいか。日常生活に深き注意を拂ふ樣に致しまして、一寸の時間を利用して運動がてら、面白半分に臺所のお手傳をさせたり、學校のお休み中には、自分の着物の二三枚も縫はせる樣にして少し其技が熟達しますと、苦なしにチョイ〳〵と我物位は仕立てる樣になりさうなものだと思ひます。さうなると高等女學校卒業迄に、知らず〳〵の間に、家持の下稽古も多少出來てるわけでありますから、サア卒業したからこれからお裁縫だお料理だと一年も二年も專ら其爲に貴い時間を費す程のこともなからうかと思はれます。其代りに願はくば尙二三年も學問を續けてさせ度いであります。頭が出來て參りますと少しづゝ心がけてやつて來た技にも、一層の工夫も加はり趣味もついて來て、自身が一家の主婦となつて切盛りする曉にはマア學問した方には珍らしいと云はれる樣な奧樣ぶりが出來やうかと思はれます。其實學問したからこそさうゝまく出來るのであります。これは私の兼ての理想で、必ず實現することの出來る理想だと信じてをります。現に其心がけを以て、其お子樣方を敎育して入らつしやる方もありまして、感心する樣なおはなしがございます。例へば、一人のお子さんが兎角茶碗をわる癖がある。これは物事に思ひを注がぬ爲で腦の發育に不完全な點があるからであると、其母君はひどく心を用ひられまして、每日臺所から食堂迄お茶碗を運ぶことを敎へました。初めに一つづゝ次は二つ重ねて、其次は三つ一所にといふ樣に練習して行く中に段々上達して參りまして、今では澤山のお茶碗を一所に運んでも、決してこわすことはない樣になつた

とのことであります。大勢女のお兒さんがおありになりますなれば。一人にはお魚節をかゝせ他の一人にはお芋の皮をむかせるといつた樣に、何くれと日常のお手傳をさせてこと／＼に智識と熟練とを與へると共に勞働の習慣をもつけさせますことは誠によいことであります。又一方意志の習練にもなることで一擧三得にも四得にもなるであらうと思ひます。

高等教育とお芋の皮むぎとは、何等の關係あらんやといつた樣に、親も本人も心得て居るのは大間違ひで、此お芋の皮むきや、お大根切りがどの位高等教育に密接な深い關係があるかは意想の外であります。高い博い學識を小さい卑近なことに應用してこそ初めて社會の進歩も發展も見られましやう。さればこの練習を子女になさしめることは最も急務であると思ひます。學術上から云々する女子高等教育の可否の論は別として、お裁縫やお料理の爲に女子教育を批難される樣なことは。我々女子高等教育を主張する母親の恥辱であると思ひます。幸に現今すでに教育ある母君方は此點に十分の御注意を拂つておいでになることは前述の通りであります、こは喜ばしいことでありますが、やゝともすれば、私の如き思ふばかりで怠り勝になりまして、自ら心苦しく感じてをります。願はくば御同感の方々は一層はげみて此點に注意して世間一般の惑を解くことにつとめ度いと思ひます。（みや）

一滴の涙はなきか

春とは申せ、さへかへつたお寒い日、今し、午後三時の放課時刻で、竹早町女子師範の門前は、電車を待ちつゝある小學高女の可愛いお孃さんたちや、終日の授業に疲れた女教師方で、人山を築いてをります。皆一樣に、大塚の方を眺めること數分時、漸く一臺の電車が參りましたが、赤札をゆるがせ乍ら高師附屬の小中の生徒を滿載して、疾風の如く馳せ去つて仕舞ひました。又待つことやゝしばし、かくて一臺また一臺、此度こそはと意氣込んでをります

と、また男生徒がすゞなりになつて、走り去りました。もう如何に忍耐強い女生徒たちも待つ勇氣はありませぬ。仕方がないわ、あるきましやうよと五人七人と動き出して。次の電車の來る迄には一人も人影を見とめなくなりました。私は熟〻と車掌や運轉手が悪くらしくなりました。此可憐な少女たちを見ても彼等の同情心はすこしもおこらないでしやうか。これが其日一日のことではなし、毎日〳〵同時刻に同じことを繰り返すのですもの、其の便宜をはかる爲に、二臺や三臺の車をふやすことくらい出來さうなものだと思はれますが、會社は會社自身の利得が多ければよし、運轉手車掌は自分の月給か上るではなし、いらないお世話はしないがよいと、かう冷やかに運轉して居る電車の爲め苦痛を蒙る者は可愛い少女たちであります。私はいひ知れぬ不快を感じて少女達と共に傳通院の方へ歩き出しました。

ある夜、吹き降りの時電車にのつてをりますと、十二三の小僧が自分よりも大きな荷物をしよつては入つて來ました。中の人々は一樣に云ひ合はせた樣に、うるさい、とんだ邪魔ものがは入つて來たといはんばかり冷やかな眼を其子に注ぎかけました。アア可愛さうにと見て居ますと、私の隣席に居られたお方は、ツト立ち上つて、私が代つて上げます、サアおかけなさいと其席を譲られました。流石に英國の敎育を受けられた方丈けあつて、すぐ其子を見て同情の念が湧き出たのであります。ア、なんといふ情ないことでしやう。幾十人の屈強な男子もありますのに、一日の事務に疲れて居られる弱い婦人をたたせねばならぬ樣に仕向ける、其心根の冷やかさに身振ひ致しました。此の方の一滴の同情の涙は此小僧にどの位慰めを與へたでありましやう。私は其小僧の爲に代りて心から感謝しました。ア、私共各々が只一滴の同情の涙を世に注ぎましたならば、世の中の苦痛の半ばは拭ひ去られは仕舞いかと思はれます。あゝ己れ人にせられんと思ふことを、人にも其如くせよの聖訓が我國民の心の底に、しみ渡るの日は

つでしやうか。（みや）

細かに、はつきりと

安井先生が手紙の表記を明細にかくやうにとお仰しやいましたが、ほんとに左様で御座います、私の宅の女中が先日もこんな事を申しました。國の父から居る所は、はつきりと事細かに書いてくれ、お前にはよく分てをるだらうが、私には分らないからと。成程左様で御座います。これは先方になつて考へねばなりませんよく届先の御所は明瞭に書いても自分の處は無茶苦茶にまげてをるので、返事を出す時には分らないために仕方なく只夫れに似たやうに、いゝ加減にまげてやることがあります。之程いやなものはありません。どうかお互に金釘は金釘なりにみゝずはみゝずなりに拙いながらはつきりと書きたいものであります。昔の人が「書は姓名を記せば足り」と申したことも、拙くともはつきりと記すと云ふことであらうかと思ひます。（よね）

謹告

本誌の發展に就て

本誌は讀者諸姉の御愛顧により、既に第四卷を重ね、日を追ひ、月を重ねて益々發展しつゝあるのでありますが、今回**時代の趨勢と一般の要求**とに鑑み、**一大發展**を企圖し、從來九十六頁なりしを**七十二頁に擴張**すると共に**内容の充實**を計るるために、日本女子大學發行の「家庭」及び女子青年會機關誌「女子青年」の編輯に當られし**小橋三四子姉**を聘して**編輯主任**とし、尚**特別寄書家**數名を依賴し、以て益々本誌の**特色を發揮**する積りであります。各位に於かせられても、どうぞ**本誌の特色**を認め、其發展のために一層の御援助あらんことを希ふ次第であります。

卓上見聞

◉兩女史の光榮

長き違にては今同女子教育奬勵の思召にて其殊勳者たる三輪田高等女學校々長三輪田眞佐子、東京高等女學校長棚橋絢子の二女史を勳六等に叙し寶冠章を下し置かるゝの御沙汰あり、去九日朝九時半文部省大臣室に於て福原文部次官、田所局長中川女子高等師範學校々長列席の上長谷場文相は二女史に勳章を傳達せりと云ふ。今二女史の經歷を聞くに

▲眞佐子女史　は夙に女子教育の必要を感じて私塾を開き傍ら慶應年間より明治に涉り岩倉家内殿の侍講を勤め、十三年更に伊豫松山に女塾を開き、三十五年遂に現三輪田女學校を創立して今日に至りしが、其間公私の各女學校に奉職する事四十七回の多きに及ぶ、女史曰く「私は儒者の家に生れて教育家と爲り教育家を夫に持つたのです、育英は私一生の事業だと思つてゐます」、「辛酸を嘗め盡して心鐵の如し」といふ師星巖先生の詩を服膺してゐますから如何なる時でも苦しいと思つた事はありません」云々。

▲絢子女史　は明治五年以來名古屋に於て小學校、女學校等に奉職後東京女子師範學校の訓導となり或は學習院に教鞭を執りたる後、名古屋高等女學校愛知女學校等の校長となりて德望益す高かりしが三十六年以來東京高等女學校を經營して今日の盛況を呈しつゝあり

女史は文久元年家塾を開きてより今日迄實に五十年間一身を女子教育に委ねられたる由、眞佐子女史の功績と共に天聴に達して遂に前記の如き榮譽ある待遇を下し置かるゝに至れるなり、女子は「私共が恩命に接した事を喜ぶよりは先づ民間の事業を認めて下すつた事を喜ばしいと思ます」云々と語れり。

由來女子教育家として藍綬褒章を得たるはあり、教育家として他に勳章を賜はりしはあれど、女子にして寶冠章を賜りしは嘗に學習院教授下田歌子女史ありしのみ。それ〳〵内命に接したる二女史は涕泣して天恩の深きに感激し、益す女子教育の爲め盡瘁すべきを誓ひたりと。然して愈よ去九日午前九時半文部省大臣室に於て傳達式あり眞佐子女史は息元道氏、絢子女史は同じく一耶氏附添ひ登省し長谷場文相は大要左の如き祝辭的訓示を爲したり。

御兩所が多年女子教育の爲めに盡瘁し其効果を收められたること天聴に達し特別の御思召により殆んど前例なき叙勳の御沙汰ありたるは惟り御兩所の光榮なるのみならず實に我が國女子教育の名譽とす、抑も又　陛下の優渥なる御軫念に就ては本大臣の轉た感激に堪へざる所なり、御兩所御老體の事なれば克く自愛して今日の天恩に對し奉り女子教育の爲め將來益す努力されんことを希望す。終に臨み本大臣は御兩所の爲め深く祝賀の意を表す。

文相の莊重なる態度辯舌は更らに兩女史を感激せしめ、共に其場に泣き伏したるより、已むことを得ず棚橋一耶氏は兩女史に代りて感謝の答辭を述べ、十時一同退省せりと。

◉藍綬褒章を受く

共立女子職業學校幹事宮川保全氏は多年女子教育に盡したる功により今同藍綬褒章を下賜され十六日午前文部省に於て長谷場文相より傳達されたり、氏は明治十九年同校を創立し爾來四千餘名の卒業生を出し校運隆盛なり。

◉キッダー女史

質素な裝ひをした外國の老婦人が一年に數回づゝ神田區役所を訪れては若干の金を係員に托し、貧民に惠んで與れと賴んでは飄然として立去る、夫れが今日までに卅餘年續いた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

係員が問ふても曾て姓名を名乘つた事が無いさか、餘まりの床しさに調べて見るさ此老婦人は神田區駿河臺袋町十駿河臺英和女學校内ミス、エー エッチ、キッダー女史であつた。女史は北米合衆國ヴァーモント州の生れで今年七十三歳になる。基督教浸禮教會の宣教師さして明治六年、三十三歳の春に來朝し、初め駿河臺鈴木町の故森有禮氏邸に寓し宣教の傍ら邸内に英學塾を開き、十七年には今の駿臺英和女學校を設立し基督教主義によつて專心女子教育に從事して今日に及んだのであるが女史は幼より慈悲心深く食を割き衣を脱して貧者に惠んだ事は數知れぬ。暇さへあれば貧家を見舞ひ病む者を慰め乏しき者に惠む、併し神田區内だけは直接の見舞をせずに寄金を區役所に托してゐる、顏を知られたくないからださ云ふ、極めて謙遜な人で社交界にも顏を出さぬ、公衆の前で演説說教等もした事がない。自分の設立した學校も校長の名義は他の名にしてゐる位ゐである。來朝以來四十年、其間に故國へは一度歸つたゞけである、曾ては花の如き女史、日本に老いて今頭上に霜を頂いて「妾は日本を戀して來た、戀するもの丶爲めには一命を捧ぐるも惜くない、妾は日本の土になります」さ云つてゐられる。

◉二保姆の表彰　麴町區麴町小學校附屬幼稚園主任高橋繁子（五十）は學習院書記長高橋定吉氏の夫人なるが去十六年二月東京女子師範を卒業し同年七月同幼稚園に奉職以來二十四年間勤續、千五百餘名幼兒を教育し功績尠ならざるより今回東京府より金二百十六圓を下附され、又同區富士見小學校附屬幼稚園保姆山下艶子（四十五）は去二十一年以來奉職後二十三年間一日の如く勤續したるが今回辭職するに付同じく東京府より金百七十六圓を下附されたり。

◉認可されたる女醫學校　吉岡彌生女史の校長たる東京女醫學校は今回文部省の認可を得たり夫れ、女史曰く「申請を願出てたのは四十二年六月です、文部省は全然相手に爲つて呉れませんでしたが四十三年の末に漸く下視察さ云ふ事に爲りました、夫れから設備々々で隨分識もかゝるうち、生徒の父兄側からは催促され私は若し認可にならなければ自殺しても追ひ付かないさ思ひました、今回漸く設備を完全にするさ云ふ事で公認された次第です、私立では慈惠會附屬醫學專門學校、熊本醫學專門學校さ唯だ二校ですが一私人の經營した私の學校が公認されましたのは此上もない面目です私の學校から出て女醫に合格したのは今日までに三十九名有ります來月の新學期からは校舍も不足ですから何れかへ移轉するか建築するか都合です」

◉第四回兒童博覽會　三越呉服店にて毎年開催されつゝある兒童博覽會は其第四回を來る五月一日より五月三十一日まで、一ヶ月間同店特設陳列場に於て開催すべしさ云ふ。同會は之れまで三月中に開會せしが、目下呉服店大建築中の事さて多忙を極め斯くは會期延引せし都合なりさ。然も會場地或は前回に比して擴大するさころあり、内容外觀さも前年に比し進歩したるものなりさ。其審査員は新渡戸博士、高島平三郎氏、坪井正五郎、塚本靖、三島通良、斯波忠三郎の諸博士、黑田清輝、宮川すみ子、岩谷小波の諸氏にして陳列品名の主なるものは左の如し

（一）人形、玩具、恩物等　（二）圖書、繪畫、寫眞其他印刷物　（三）和洋服及び附屬品一切　（四）帽子、靴、下駄、草履及び附屬品　（五）小間物、化粧品及び造花類　（六）洋傘、袋物其他携帶品一切　（七）乳母車其他乘物類　（八）學校用品及び文房具類　（九）體育運動具　（十）椅子、卓子其他什器類　（十一）和洋樂器及び附屬品　（十二）菓子及び食料品　（十三）理化、博物、地理、歷史等の標本　（十四）建物、機械、船舶、武器等の模型又は標本（十五）保育用及び教育用機械器具

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯局より

▼花が咲いて人の心も胡蝶と共に浮き立つ彌生となりました。斯く自然は生きかへる年中の尤もうれしい時だのに、いかなれば毎日の新聞には黒枠が多いでせう。我木多先生も苟且の病から遂になくなられました。何とも愛惜の言葉のない次第であります。

▼本誌は一般よりの要求に應じ、今一層我國の婦人界に盡すの微衷より、別紙廣告の如く一大發展を企圖し、編輯主任には是まで本誌の寄稿家として、女子青年の編輯者として經驗ある小橋姉を聘することゝなりました。之より愈よ益々特色を發揮し俗惡極まる現代の婦人雜誌界に異彩を放ちたく、同人の密かに期待するところであります。

▼本號より「我國家庭に於ける改良すべき事」と題して先づ來客及訪問に就て經驗ある方の意見を徵しました之から集會住居、衣服、厨房、器具其他有らゆる方面に向つて研究したいものであります。どうか讀者諸姉にも現に實行し居らるゝ事で、在來より進歩した御實驗、又は御意見がありますなら遠慮なくお寄稿、幸福を皆樣に分つて下さい。

▼また本誌に向つて不足にお感じになる所がありますなら、どうぞ憚らず御要求下さらんことを願ひあげます。同人は本誌の改良の爲めには如何なる困難も犧牲も惜しまない決心であります。

▼身にしみた親の躾けは方々から好い反響がありますから、今少し繼續する積りであります。皆樣も長いものと限つたわけではありませんから、續々と御寄稿下さいまし。其他文藝隨筆和歌隨感等歡迎します

定價

（郵税加算）	内地及朝鮮支那	外國
一部	金拾錢	金拾四錢
六部（半年分）	前金六拾錢	前金八十錢
十二部（一年分）	前金壹圓拾錢	前金壹圓六十錢

廣告料

一行（廿三字詰）	金廿五錢	一頁	金拾圓
四半頁	金三圓	内表紙	金拾貳圓
半頁	金五圓	外表紙	金拾八圓

猶ほ引續き御廣告の向へは特別大割引可仕候

摘要

▲本誌代金は總て前金にて御拂込み被下度候
▲郵劵代用は一割増の計算にて御送附被下度候
▲御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候但手數料金壹錢御加へ被下度候
▲通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に新上候

明治四十五年三月二十五日印刷
明治四十五年四月一日發行

發行人兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區丸山町四番地　相原一郎介
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所
發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社
電話番町二五四四
振替貯金口座一四〇〇五

四月號

婦女界

一冊金十五錢 郵稅一錢五厘 六冊金九十錢 十二冊一圓七十五錢

東京神田 同文館

◎女の力 文學博士 谷本富

▼青年子女に告ぐ 加藤男爵

▼縮緬とはどんなもの 伊藤技師

▼婦人と柔道 [illegible]

▼日曜日と心身の休養 コーツ夫人

▼動物の獨身生活 安藤[illegible]沼

◎女性美 高島平三郎

▲お醫者を迎へるまで 伊藤醫學士

▲流行の實用品 記者

▲日常の作法 笹木幸子

◎育兒實驗談 鳩山春子

▲文藝其月々 沼波學士

▲花に（英詩） 若月學士

附錄オペラパックの形紙

◎手輕に出來るお總菜

◎觀櫻會西洋料理 大瀬學士

◎睡眠と夢

◎奪掠された女 千萬樹

◎犬の死と失踪 野上臼川

◎相模屋 岡田八千代

◎新世帯の記 千萬樹

◎津田梅子女史

永廣堂

香料

本店　大阪市南區安堂寺橋通一丁目　電話番號南一九七八

支店　東京市日本橋區馬喰町二丁目　電話番號浪花四〇〇

京染
悉皆商　松井宗七
京都市新町三條上ル
并ニ白生地販賣仕候

京都染元

染見本發送

黒紋附
模様染
新小紋
色染
更紗染

取引簡易

玉德商店
京都市醒ヶ井佛光寺

第三巻

新女界

合本

製本既成發賣　定價金壹圓（送料共）

●社　説　（安井哲子）

▲死ぬ迄働き續ける元氣▲無意識の感化▲個人の歷史▲奮鬪と慰安▲他人の喜びに對する同情▲趣味のいろ／＼▲過つて改むるに憚る事勿れ▲懷かしい十年前の夏▲温情▲勇氣▲犧牲の精神▲心の準備

●講　壇　（海老名彈正）

▲現代婦人の缺陷▲永遠の生命▲恩惠の聲▲柔和の福音▲誤解せられたる基督▲女子の解放▲愛苦の眞義▲神の聖愛▲向上の動機▲基督の家庭▲基督教の眞髓

●想　苑

▲新らしき生活　谷津博士
▲現代女學生の惡傾向　小此木松子
▲禮義の根本觀念　三谷民子
▲亞米利加だより　海老名一雄
▲かあやん　德富健次郎
▲現代小說雜誌　小山東助
▲湯臺叢話　谷澤直秀
▲獨逸見聞記　吉野作造
▲婦人解放の是非　宮田脩
▲佐久間大尉の手紙　德富健次郎

▲矯風問題　島田三郎
▲女子の教育の標準　村田勤
▲婦人の活氣　小此木松子
▲伊香保より　野口精子
▲形式道德の無能力　村田勤
▲土耳古の話　小松武治
▲惠み多かりし二夏　三谷民子
▲夏の巴里　藤島武二
▲西班牙の夏　湯淺一郎
▲常樂の生活　二宮貞子
▲子女教育に對するの母の務　海老名みや子
▲婦人と信仰　海老名彈正
▲「アンドリヤ、デルサト」を讀みて　三谷民子
▲無題錄　小此木まつ子
▲女子の高等教育論　ヂヨルダン博士
▲我國女子の將來　成瀨仁藏
▲婦人解放問題　內ケ崎作三郎
▲男女問題の意義　安部清藏
▲淨心錄　谷澤直秀
▲世界最大の美　宮川經輝
▲文欄▲家庭▲雜俎▲衞生▲隨感▲其他種々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

拾二卷

新人

合本

製本既成發賣　定價金一圓參拾錢（送料共）

社説（海老名主筆）

▲教育勅語と基督教▲現代基督教の二大根據▲國民道德の進化▲國民道德の究境▲朝鮮傳道▲國民道德の根本を發揮せよ▲神社崇敬の疑問▲朝鮮に於ける感想▲朝鮮人の使命▲祖先崇拜か子孫崇拜か▲我國民性の變遷と基督教▲支那の内亂と帝國民の覺醒

教壇（海老名彈正）

▲超人の使命▲信仰と忠君▲弱者の宗教強者の宗教▲現代に對する基督教の使命▲橄欖山上のキリスト▲基督の自覺▲新道德の基礎▲基督の流離▲基督の僕と友▲希望の生活▲自信▲靈能の實證

想苑

▲精神生活の内活　高木壬太郎
▲現代思潮と教育家　加藤直士
▲基督教界の缺陷　中村長之助
▲一元か多元か　富永德磨
▲近時の基督教觀　津荷環山
▲教會大合同論　内ヶ崎作三郎
▲基督株殺論を駁す　額賀鹿之助
◀滯德日記　吉野作造

▲基督教神秘主義の興起　富永德磨
▲基督教會成立の顛末　中村長之助
▲基督教の賜物　安部磯雄
▲基督教と沒我思想　芦田慶治
▲基督教は個人主義か沒我主義か　富永德磨
▲時代先覺の識見　海老澤亮
▲東洋思想と基督教の交渉　赤司繁太郎
▲社會事業の新紀元　鈴木文治
▲東洋意識と基督教　中村長之助
▲基督者の見たる起信論　津荷環山
▲イエスの人格　額賀鹿之助
▲自然主義か理想主義か　鹿手木員信譯
▲天才論　富永德磨
▲基督教の眞髓と宗教哲學　久布田直勝
▲教派合同の史的發達　小平國雄
▲イスカリオテのユダ　森脇白夜
▲予が基督に對する關係の歷史　安部清藏
▲予は佛陀より基督に往けり　小山鼎浦
▲祖先崇拜と基督教　赤星仙太
▲國家主義と個人主義　帆足皆夢
▲實生活に働く信仰の力　内ヶ崎作三郎
▲海野氏の日本人種改造論を讀む　谷津博士
▲聖書講義▲雜俎▲時潮小觀▲文藝小觀
▲時評▲其他

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

（電本）八八八（病院用）八九八（私宅用）

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋南

院長　醫學士　高田畊安

南湖院

相州高座郡茅ケ崎町海濱從停車場半里

電話ちがさき二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

但　院長渡歐中　副長代理す

明治四十五年四月一日發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

東京市小石川區林町四拾三番地
新人社
貯金口座 東京一四〇〇五